

建築と社會

昭和24年3月19日第3種郵便物認可 昭和28年1月25日印刷 昭和28年2月1日發行

The Architectural Association of Japan

新建築紹介

大阪府立結核療養所羽曳野病院 11

記事欄

座談會「これからの建築技術の學校教育は……

どうあるべきか」日本建築協會教育委員會 1

工學はどこに問題を求めるか——構造學者の會合に

出席した門外漢の辯 西山 卯 三 8

大阪府立結核療養所羽曳野病院建設工事概要 10

家庭合所のあり方 野 田 義 夫 16

私たちの建築史(2) 林 野 金 孝 18

葉 煙 室

現在の公營住宅の意味するもの 山 地 英 雄 21

會 務 24

日 本 建 築 協 会

Vol. 34
1953

2

HITACHI

快適な運行!



日立エレベータ



各種 エレベータ 電動階段 ダムウエータ

東京 大阪 名古屋 福岡 仙台 札幌

日立製作所

日本建築協会優良證

珪瑯被膜鋼製化粧板

Sunwall

サンウォール

型録贈呈

御報参上

アメリカで最近素晴らしい進出を見せている最新建築材珪瑯化粧板が我が國でも出来る様になりました
ビルディング、學校、化學、藥品、食品工場、デパート、劇場、商店、レストラン、ガソリンスタンド等人の出入りの多い處の外張り、内張り、壁、天井、間仕切り、厨房、浴室化粧室等の設計には明るく美しいサンウォールを

- 特微
- 1 耐火、耐水性に富み
壽命が長い
 - 2 何時迄も褪色しない
 - 3 汚れてもすぐ取れる
衛生的

サンエナメル工業株式會社

本社 大阪市北區宗是町大ビル七階

電話土佐堀 ① 1115番 5520番

工場 明石市大久保町雁畑

電話 大久保 3 9 番

会 告

午 餐 会

二月定例午餐会を下記に依り開催いたします、例により多数御参加あらん事を待望します。

追而一月午餐会に列車事故のため出席されなかつた尾崎久助氏が当日列席欧米事情につきお話し下さる事になつております。

- | | |
|---------|--------------------------------------|
| 1. 時 | 2月19日(木) 午前11時半集合 |
| 1. 所 | 大阪府立労働会館
市内東区京橋三丁目大阪郵政局東隣 市電天神橋下車 |
| 1. 会 費 | 350.00 前納お願いいたします |
| 1. 申込締切 | 2月18日迄なるべく会費を添へ申込れたし |
| 申込所 | 朝日ビル六階事務所又は天神橋分室宛 |

日 本 建 築 協 会

東洋リノリウム工場見学会

二月見学会を兵庫支部と共催で下記により開催いたします。

東洋リノリウムは御承知の通り本邦只一のリノリウム工場で戦前は度々参観の機会を得たが今回は実に10数年振りの見学であります、戦後に於ける同社の製造工程は格段の進歩と増産に努められ各方面の需用に応えられておりますが其製造状況を窺にする事は建築関係者の参考となる処多く意義ある事と考へます希望の士は好機を逸せず満員にならぬ内申込み下さい。

- | | |
|----------|---|
| 1. 時 | 2月18日(水) 午後一時晴雨不論集合 |
| 1. 集 合 所 | 大阪阪急横省線ガード下附近 1時10分頃借切バスで出発。
神戸方面其他直接工場へお越の方は2時迄到着されたし |
| 1. 見 学 | 伊丹市東洋リノリウム株式会社工場
説明見学後再び借切バスで約5時大阪駅帰着 |
| 1. 申込締切 | 2月16日迄整理会費30円と共に天神橋分室宛申込の事
但バス満員次第先着〆切る |
- ☐ 本見学は会員に限り代人絶対お断りの事
☐ 参加者は会員章是非着用の事
☐ 見学先の都合で同種類御関係業者の方は御遠慮願ひ上度き事

社団法人日本建築協会 会 勢 委 員 長

創立35年記念事業後援申込芳名

前号掲載後御申込を受けました芳名を列記し深甚の謝意を表します。尙本年度事業としては記念出版を続行中でありますので、未だ御申込洩れの各位はこの際応分の御協力を賜ります様特にお願ひ致します

昭和28年1月20日

記念事業委員長資金部長 東 畑 謙 三

申込芳名並金額(申込受付順)

小 笠 原 祥 光 殿	1,000	道 田 泰 次 郎 殿	500
堀 口 甚 吉 殿	1,000	伊 藤 正 文 殿	1,000
猪 狩 芳 雄 殿(茨城)	300	鈴 木 金 太 郎 殿	300
皆 部 和 夫 殿	20,000	神 田 省 三 殿(兵庫)	500

本月分計 24,600

以上(自12月21日 至 1月20日)

会 告

建 材 審 査 證 明 発 行

昭和27年度中本会建材審査委員会に於て審査の結果優良と認め証明を発行したものは下記の通りである。

新型実用新案 平 安 瓦

ナ ニ ワ S 型 瓦

胴付金物 サ ポ ー ト

特製朝日 波 型 ス レ ー ト

三 印 星 ア ス フ ア ト タ イ ル

波 型 石 綿 ス レ ー ト

三 星 印 石 綿 ル ー フ イ ン グ

防 火 塗 料 タ イ ネ ン 二 号

厚 型 和 歌 山 ス レ ー ト

化 粧 板 サ ン ウ オ ー ル

陶磁器質テラゾーセラストーン

レヂンエマルジョン塗料ウルオトン

佐 村 木 商 店

ナ ニ ワ 瓦 K K

オ ー ケ ー 商 会

朝 日 石 綿 工 業 K K

田 島 応 用 化 工 K K

磐城コンクリート工業KK

田 島 応 用 化 工 K K

関 西 ペ イ ン ト K K

和 歌 山 ス レ ー ト K K

サンエナメル工業KK

山 本 深

東 亜 ペ イ ン ト K K

社 団 法 人 日 本 建 築 協 会

新刊「これからの住宅図集」

記念事業の南海羽衣一円地に建設展示せし、新住宅28戸並懸賞募集した新時代の住宅設計
入選佳作図案20余種 B3版約30頁におさめた図が出来、一は優秀業者27社が競うて設計、
実際に建築出品されたもの、一は新時代の理想住宅案として一般に好評を博している。

一部定価 ￥ 200.00 (会員一割引) 送料 ￥ 32.00

新刊パンフレット「アスファルト防水とセメント防水工事」

一部定価 ￥ 60.00 〒 8.00

但会員一部 ￥ 50.00

新刊パンフレット「衛 生 工 事」

一部定価 ￥ 100.00 〒 ￥ 16.00

但会員一部 ￥ 90.00

テ キ ス ト「建 築 講 座」

新構法、材料、住宅

B5版 174頁 1冊送料共 ￥ 200.00

日 本 建 築 協 会 発 行

申 込 所

朝日ビル事務所又は天神橋分室

日 本 建 築 協 会 事 務 局

座談会 「これからの建築技術の学校教育 はどうあるべきか」

(第1回設計関係)

主 催

日本建築協会教育委員会

昭和27年12月18日 自 2時半 至 5時

於 大阪建設会館会議室

御出席者 (五十音順敬称略)

司 会	鷺尾 健三 (教育委員会委員長)
設計側	池上 勝郎 (池上建築事務所)
	池田谷久吉 (池田谷建築事務所)
	桎根 英郎 (大林組設計課)
	佐久間逸治 (佐久間建築事務所)
	塚本 猛次 (日建設計工務K. K.)
	森 忠一 (村野・森建築事務所)
学校側	犬東 徳郎 (兵庫工高)
	篠原 太郎 (大阪市立工芸高)
	滝沢 真弓 (大阪市大)
	豊田 彌吉 (伏見工高)
	長尾 勝馬 (都島工高)
	福田 朝生 (京都工芸繊維大)
	元良 勲 (大阪工大)
	安井 武一 (伏見工高)
委員側	亀井 貴一 (西野田工高)
	上林 博雄 (大阪市大)
	菅田 豊重 (大林組)
	中野順次郎 (大阪市教育委員会指導主事)
	日野 勝好 (竹中工務店)
	益尾 辰雄 (都島工高)
	山本 利雄 (大阪市立工芸高)

は し が き

座談会開催の趣旨については、本文に明らかであるから、ここでは触れない。はじめ、我々としては、座談会の様子を全部速記にとりたかつたのであるが、色々な都合で、阪大大学院学生・中川両君に筆記録の形にまとめて頂いた。ここに両君の労を謝したい。

この発表については、始め短かくちじめなければなるまいと考えていたが、編輯部の御好意により、その全文を載せて頂けることになった。感謝の外はない。なお、この全文は当日出席頂いた方々に御覧願ひ、必要な所は訂正してある。

談話の中には、大小さまざまな問題が提出されているが、これらについては、会員諸賢の注意深い御考察にお

まかせして、我々としては、今は解説めいたことなど何も申し上げなくていい。これから以後また数回色々な方面の方との座談会を開く予定なので、何れも次々にこの誌上で会員諸賢に御報告する。御期待頂きたい。なお、この座談会などに関して会員諸賢の忌憚ない御意見がうかがえるならば、我々として幸甚この上ない。御協力と御支援をお願いしたい。 教育委員会委員長

鷺尾 御多忙中多数御参加頂き、私共の委員会、従つて本協会の事業に御協力頂いたことを、心から感謝する。この「これからの学校技術教育はどうあるべきか」と題する座談会を開くに至つた経緯を御説明すると、その最初は7月9日この委員会の本年度事業計画の時に始まるので、その際、本年は、建築技術者教育問題の根本から出直して、建築業界としてはホントにどんな技術者や教育を要求しているのかを考えて見よう、その中に我々委員会の仕事が見出せようとの意見から、その手ははじめに学校卒業技術者の反省、批判に関する座談会を9月に第一回を開くことを目標に計画することになった。

その後近畿工高連盟でも非常に興味を持って居られることが判り、その御協力を求める等、色々慎重研究、準備の結果、各職種グループ別に座談会を開くことになり、先般12月4日第一回の御招待をしたが、私鉄ストで駄目になり、今日になった。

以上からおわりの通り、この座談会の趣旨は、これまで技術者は主に教育関係者側の考えに基いて教育されていたのに対して、近頃のように分化して来るとそれでは不都合になつて来るから、どうしても、業界の実状や要求に基いて教育の体系が作られ、又、教育が行われるべきで、それで、何とかしてその業界の要求を教育に反映する手がかりを得たという、こんな所にある。

座談会の主旨がそうであるから、技術教育はどうやればよいだろうか、又新学制についての考え方も業界の要求に基いて教育の仕方を考えるべきだから之について業界の考え方を知りたい。又学制も変つたのでそれについての御意見もききたい。この座談会で到達すべき一つの結論を得たいのではなく自由に議論してほしい、教育制

度の問題になつてもよし、どうか御忌憚なく。

この談話の筆記をとつてそれを整理して「建築と社会」にのせたいので筆記しやすい様一人ずつ話して頂きたい。出来たら最初にお名前を云つてほしい。その結果お名前を出すのが都合が悪ければ出さない。事務所側、学校側という風に進めたい。

学校が大変、変つて来ましたが中野先生は教育委員会の方をやつて居られるのでどうぞ。

中野 学校の組織の変つた理由は省略する。形の上からは昭和23年から変つた。前の制度は工業学校、工業の専門学校、大学であつたが、現在は、工業高等学校と新制大学に変つて来た。時間数等の計画も変つて来た。時間数といつても建築の専門教育を工高では3年、新制大学では4年を大体半分に分けてやつている。生徒の質は前の工業学校は小学校の上に出来て居り、今の工高は九ヶ年の義務教育の上に出来ているから、生徒の質の方からは3年余計に教育をやり、その上に専門の教育をやるから学習能力の発達段階は前に比べれば工高の方がやりよいシステムである。年限的に見れば以前は5ヶ年、現在は3ヶ年である。新制度の内容にふれるが大学以外の工高について云えば専門家を作る教育になつて居ない。市民として役に立つ人間を作る事で職的に役立つスペシャルな人間を作る教育でない。ゼネラルな人間を作る事から巾が広くなつて居るが専門的に生ぬるい性格がある。その精神は法的に定められ、変える事は出来ない故に専門的でなくゼネラルな人間になつて来ているが、そう解釈してよいかどうか議論しようと思う。一般教養は果してゼネラルな人間を作る事だけに役立つか。今の工高はゼネラルな人間のみを作ると簡単に定められない。今の時間、38単位の形で同じ様なゼネラルな人間の出来る事に自分は疑問を持つ。3年のうちに職人を作るのではなく職教育をとほしてゼネラルな人間を作ればよいと思うが、それは出来ないだろうか。大学については後程滝沢先生に話して頂く。一応形については前と異つている点を述べたがこの程度で。

鷺尾 学校教育の移り変りは今迄の話で大体わかつたが実際に工高、新制大学の卒業生を使つて居られるだろうがそれについて御意見を一つ。

池田谷 只今、今度の變つた学校内容、教育要旨をうかがつた。最近の卒業生を我々の昔のスケールで見ると実習教育の不足が認められる。それから最近修身科が大分とり上げられたが勤務に対する観念、指導者に対する考えが我々の時代と變つて居る。特にその点を感じた。月給は自分の仕事の報酬で当然だと考えて居る。我々の時分は仕事を教えて貰うと考えた。遅刻した場合などは帽子とカバンを小使室においてでも勤勉ぶりを見て貰う仕方であつたが、今の卒業生は割合平気だ。学問的には我々の時代より進んでいる事は認める。之は学校側の努

力、害物の多い事にも依るがしかし設備が不完全であるのは気の毒であると思つている。

益尾 近畿高校建築連盟で調査した結果によると、終戦後の実情として近畿だけの統計ではあるが建築を勉強しようとする生徒が増えた。現在近畿地方7府県で31校この中には夜間定時制も含むが、1校で50名だとして千五・六百名が毎年職に就きに行く。これ等の人は大阪を中心として職を求めるが、生徒数が増え職場がせまくなつて来た事が終戦後變つたことの一つである。色々の事情で今の工高の定員が増加しているのでそうなつて来た。

鷺尾 新制の工業高等学校の卒業生は前の工業学校、専門学校のどの辺をカバーするものと考えているか。

益尾 まだ結論は出ていないが、工高校の卒業生は職場でどんな仕事をしているか調査中である。

鷺尾 新しい方へ話が進んだが、旧制の卒業生に対しての御意見を一つ塚本さんからどうぞ。

塚本 おくれて来たのでまだ雰囲気になれないからまだ見当がつかない。あとで又。

佐久間 今池田谷所長の言われた様に情操教育に就て私も若干考えさせられる点があると思います。私が元工業学校の教師をして居た時代と私の教え子が今立派に矢張り高等工業の学校の教師をして居りますが。言い替えると戦前と戦後の話しを比較対象して見ると成程と感じられる、それは私の時代には生徒は教師に対して尊敬と敬虔な気持で接して居り学園に対しては神聖なる「まなび」の庭としていた、それに引換へ今日では成程学問的には音楽や芸術は世界の水準に達しているか知らぬが、教師たりとも吊し上げにしたり、月謝や自治会会費なども納付せぬ学生があり、これを委員が督促すると、何んとか理由つけて延ばす。それを亦蔭では自慢して居るとの話しを洩聞して居る。これは一つの例に過ぎないがこうした過つたデモクラシー思想や学生の時代から社会的秩序を紊す様な生徒に対し建築技術の学校教育に就て語る前に先ず情操教育の必要を感じます、甚だ封建的なと思われ且つそれは一部の学生のみを対象にして居ると言われるかも知れませんが、私は違つた意味の昔の修身などが復活されて人格をつくる点に一層留意せられたいと思います。繰返し申しますが、失礼ながら私共が七輪の火一つ起せない様な学校出たての若い人達の面倒を見て行く上に於て、学校当局は情操教育に力を注いで頂きたい……と云う事が今日の建築事務所での共通した要求でありましょう。

滝沢 戦後の学制改革に當つて文部当局は新制度が「アメリカ軍のサゼクションによつて行われることになつた」と云つたそうだが実は強制されたんだね。いつたい戦前の学制は明治19年伊藤内閣の時制定されて後あまり変化していない。つまり明治維新後日本独自の制度が完

成するまで20年近くかかったわけだ。今後もそうぢやないのか。とにかく今のようなアメリカ植民地みたいな制度は困る。明治の制度は大体イギリスが手本で、後に特に理工科系はドイツ風に傾いた。が最近ではアメリカ一辺倒だ……ところで私はこういう話を思い出す。三井の大番頭だった池田成彬氏が戦後アメリカへ行つて、某所で海外取引上の信用調査の方法をたずねた。すると実にボウ大な資料(書類)を持ち出してきたのでビックリした。これはとてもカナワヌと尻つぽをまいてイギリスへ行つて、また同様の事をたずねてみると、そんな資料は無いという。ではどうして信用ができるかと聞くと「人間を信用するんだ。たとえば三井には池田が居るから」というわけだ。これにもまたビックリしたそう。西洋とか英米とか一つにいうが両者の性格はこうも異う。新制度はアメリカ式で人を信用しない。人間の値打ちをすべて点数で決める。たとえば大学教授の資格など、学歴、学位、教職何年、論文何通と、つまり質をすべて量に換算して集計する。ビジネスだね。そのうちに道徳も情操も点数で勘定するようになるかも知れぬ。こういうアメリカ式点数制はソ連のノルマ制とその型において共通だ。そのアメリカとソ連の間にはさまった日本は悲壮と申すの外はない。とにかく教育の畑で人を信用しなくなる傾向はよくないと思う。

鷺尾 情操教育では工業高等学校の方はどうですか。

山本 情操、しつけでは時間的な事が原因である。2年或は1年半しか専門的な教育をしていないので専門的学習をととしてしつけの訓練を考えているが時間的に短く愛情が移りにくい。前の制度の頃に比して十分に愛情がしみ通らないうちに社会に出て行くのが一つの大きな原因になつてゐる。建築をととして人格を作り上げる事が難かしくなつた。近畿高校建築連盟では技術的に課外のものを色々やつているがしつけの面では今迄の事が出来ない実情にある。

鷺尾 現在、小学校、中学校、高等学校のコースがあるが情操教育は小学校、中学校のコースでやればよいのか或は職場でやるのがよいのか。それについて御意見を。

樫根 私の所は技術系統では全国の各程度の学校から来て居るが卒業したらすぐに東京・大阪で1ヶ月準備教育をする。半年は実務につかない。その間に本人が現場

にむくか、設計に向くか或は本人の希望などがわかる。半年はトレースや現場との連絡をやり責任ある実務には就かない。指導者をつけてその云う通りにする。1年経つと会社の都合により配属される。始め学校から出て来た様子を見ると急に環境が変わるので、例へば定時に出勤する等窮屈であるが、だんだん馴れて来る。請負は建築の仕事で一番どこへ行つても頭が上らない。その事を大体半年で悟る。早い人はすぐ気がつくが、1年位で身にしみる。自分の考えは余り出せない。時間的に期長を切られる。徹底的に精神的に痛めつけられる様である。

日野 私の所は4月1日に見習として半年乃至1年、技術、事務の人を入れる。今迄は大阪で将来の幹部社員となる人々故、規則正しく寮生活をやればよいと考えるので寮に収容する。各部に配属して3月或は半年毎に部署を変える。1月1日で準社員に昇格する時にははつきり所属を定める。その間色々、不平とか希望をきき、我々も不備なものは直ちに改善したり、又型にはまつて貰う為月1回部長級の人と会食する。それにより本人達の考え、希望等純真な気持ちで云われる事を卒直に聞いてやる。社長も一々それに応答する。部署責任者もそれに助言する。例えば建築をやる人は字がうまくなければいゝので習字を、又算盤をも毎週1回、1年間、義務として習わせる、字の練習は毛筆ペンの両方をやる。算盤に対しても見習の間は強制的にやらせる。又色々の研究機関もあり、新しい希望者を入れて新しい事をどんどん取り入れる。私の感じる事は最近の人は多少あまいという事である。社長の前でも君、僕など、言語的な教育が不足だ。頭の上らない職業だから言葉は丁寧にすべきである。社員も見習といつて之を差別しない。古参の人が2、3人引き受けて指導する。そして竹中の家風に合わない人は見習期間中にやめて頂く。見習の間に個性が合わないと思う人は自由に出て貰う。一般に請負は時間的に束縛され自由な時間がない。又近頃の人は金銭に対してキタナイとか下品に思つている様である。金の為にこんなに働かねばならぬかと思つて居る。甘い考えを持つてゐる事を痛感する。多少温室育ちでありすぎる。実習を経て来た人はそうでもないが事務系統の方は殊に温室育ちが多い様である。

滝沢 それはあなたの所が良家の子弟ばかりお探りに

世界に市場を雄飛する



近代建築の粹

床材は リノリウムと リノタイル

東洋リノリウム株式会社

取締役社長 斎 信 敬 二

本社及工場 兵庫県伊丹市伊丹五五八番地 電話 伊丹 1・51・69

東京支店 東京都中央区銀座四丁目(三和ビル) 電話 京橋 171・266 4

大阪事務所 大阪市東区瓦町二丁目(三和ビル) 電話 北浜 375・376

TOYO'S LINOLEUM & LINOTILE

なるからだろう。

森 頭の上らない事、之は建築事務所の方がひどい。私の所は優秀な人を推せんして貰っているが入つて来た時にはいつもこれと言っている。事務所という所は出家して来た積りで入つて来なければならぬ。他所で友人がだんだん上つて行く事に必ず数年の間に目がくらむからそんな事のない様に入つて来て欲しいとよく云う。1年間はトライアルとしている。学校出の人も同じだ。この間自由な気持ちで出入り出来る事は竹中さんと同じである。1年後本人が続いて勤務すると云われるならば一生涯一緒に仕事をして貰う気持ちでないと困る。十年間というものは1人の指揮者の手足となつて脇目もふらず仕事する事が我々の希望である。人間の価値はそこにあると思う。技量人格が出来た後は事務所に残つて貰うなり、又その人の技量の発揮出来る場所へ推せんする。先ず健康である事、図面をかく事を憶効がらぬ事が大切である。言葉を図面で表わすのであるから話をすると同じ様にいかいて疲れぬ人が欲しい。

鷲尾 今迄の話では人間的な基礎があればよいと思われたが技術教育のあり方で御希望は。

塚本 私の所は自然の組織を作っているが森さんの言われた考えは持っている。技術の点で足りないというよりもチームワークで一つの事をまとめ上げる事が望まれる。それを学校の課題の中に入れてほしい。唯自分のプランを自分でまとめ上げるだけの事でなくチームとして纏め上げる事が大切だ。永年の間にその人の素質を伸す事に努めているが、設計に向くか現場に向くか色々の特徴を学校で世話して頂くときにその人の大体の素質を知らせてほしい。技術の事では時間数だけで比較するのは気の毒だ。今年は採用方針を少し変えた。技術の過不足だけで将来その人がのびるかどうかは人間にかかっている。勤務状態は私の所では出勤簿でなく出た時間と帰った時間をつけて自由になっている。

鷲尾 工業学校の方で何か……

篠原 新制度の事で先程お話があつたが現在の新教育について御同情を頂きたい。実習時間は旧制度の1年間60時間に比し20時間に ならず 3分の1以下になつている。中学校の基礎教育に建築に関係する学問、例えば用器画はやつていないので之は大きなマイナスになつている。小学校卒の人をすぐ入れて製図をやらせる事になる。昔の実業学校に比し劣る事は時間的に見て当然だと思う。学校の先生はこの点努力しているが、昔に比し時間的に少いので卒業してすぐ使えるかどうかは心配である。ゼネラルな人間をととして専門的な人間を作り上げる事を云われたが、それでは専門教育の名で卒業させられない。竹中のように見習期間を設ける事はよい事と思う。基礎教育のみに専心出来ない。しつけの事でお叱り

を受けた事は当然と思う。小、中学校を通じて現在は社会科で教えているがその内容が専門的になつて道德教育が出来るかどうかは疑問である。先程男女の性的風紀びらんが男女共学の結果起きたのだと叱られたが共学でなくとも現在の社会状況、住宅、映画、雑誌等と社会が学校教育を破壊している現状である。3年間で充分教える事は無理であると共に入つて来る人達の道德教育も出来ていないので、しつけの問題は社会と学校の共同責任であると思う。過渡期の教育では採用者の方で満足して頂く事は難しい。この点に同情して頂きたい。自由をはき違えている人達を養成するのではなかなか難しい。就職があるので学問だけに懸命になつて道徳的な方はおろそかになつている様である。この点に教育者の悩みがある。使用者側はこの点をくんで頂きたい。長い目で見て頂きたい。

鷲尾 今迄の話では、世の中が悪い事になつて了つたが、事務所と言えば、デザインと考えて来たが、デザイン教育をどうすればよいのか。

元良 私の方は、別に従来の方法と変つた事をやつて居ない。無反省でやつて来て居るが、上手なデザイナーを養成する事は教師の手に及ばない。デザインはこつこつ楽しんで図面を描く以外に手はない。デザインのうまいのは、工芸学校に驚く程うまいのが居る。学生には計算の方をもつとやれと言つて居る。

鷲尾 福田さんの方はどうか。

福田 工芸繊維の方は新制大学になる時に、京大が隣りにあるので特色を出す意味から建築設計を主体にしてやろうと言うので始めたが、此の就職期を控えて考える事は、設計に重点を置くと言うやり方は入学の時に設計に向く者を探るの でなければ意味がうすい。従つて今後は個性を生かすと云う意味で、君は設計をやれ、君は構造をやれと云う風に突込んだアドバイスをする必要があることを痛感する。

設計は現在アトリエ式をとつて、クラスを二組に分けて同じ課題を与えて別々に指導して居る。定員30名で従つて15名ずつになるので稍々指導は楽だが、それでも手が回り兼ね理想的効果は期待できない。

只単科大学の性格をもつて居るので、所謂ダイアゴナルシステムを採用して教養コースと専門コースを併行し一回生から製図に親しめる様になつて居ることは他の大学に比較して有利な点だと思う。

鷲尾 阪大は構造の教師が3人、デザインは1人であるが構造をやるのにデザインを知らぬ者は駄目だ。又計算器のような構造屋も駄目だと言つて居る。

長尾 都島は45年前に出来たのですが今から20年前の技術教育は製図室6、収容人員20人、2クラス6年の課程職員20名であつたのでゆつくりして居た。現在は製図室2、職員6名、収容人員40人、2クラス宛であるがそ

れを3年でやる様に云われて居るので大変である。個人に直接に指導相談が出来ない。昔の1人当りの受持ちが6倍になって居る。デザインと言つても地味なデザインである。入社試験に出しても時間一杯にやつと平面図が出来た様なものでその平面は完全なもののですがデザインに手がつけられない有様です。何とかして自由奔放なデザインをやらしたいと思つて居るが追付かない事を遺憾として居る。手の廻らぬ事、多人数と製図室の足らない事が残念である。

池上 若い時はデザインのためのデザインをする傾向がある。事務所に入つた頃は実状と離れた夢を持ち勝ちである。平面から発達した立面合目性から発展したデザインを要求したい。細部の技巧を弄ぶデザインは極度に排撃したい。帰納的合目的な事から必然的に流れて来たデザインを要求したい。デザインは人格の表現でもある。日常生活の細部の点から表れた人間をリファインさせたその心でデザインするのが理想だと思う。

豊田 高等学校と大学とは使命の区別がありはしまいか。大学の事を工高で要求する事は無理だが、基礎的な事はやる様要求して居る。工高と大学の技術的差異はどんなものだろうか、業界の方の要求を聞きたい。

森 デザイン教育について色々承つたが、フランスでは建築士、之は政府公認建築士であるが全国で40人しか居ない。教育はアトリエシステムで建築士の先生が5人その中3人は学校内に、2人は外に居る。1学年は40人で1級8人宛居る。アトリエが定位置で講義の時だけ学校に行く。アトリエで1年も2年もローマ大賞を得るために卒業を延す事もある。設計の教え方は学校に行つた時に課題を出される。例えばある課題を鉛筆でスケッチし8時間の中に其れを仕上げて置いて帰る。最初のイムプレッションを以て2ヶ月の間に各々のアトリエでまとめる。それを立派な図面にして呈出してその下に最初のスケッチを貼つて出来上つた図面と比較する。スケッチはアーキテクトとしての訓練である。期限間際に慌てて仕上げるのではなく最初のイムプレッションを合理的に研究所でまとめ上げて行く。その課題は個々の小さい問題でなく例えば住宅にしても、庭園が附くとか、或はチャーチ等もあつて大きな総合的な問題でありそれを纏める事を課題にして居る。勿論程度を下げた教育過程或は下級の生徒は範囲の狭い個々の問題を与えて居る。

元良 豊田先生から大学と工高の教育の違いを問われたが工高は目から、大学は内容的に教えるものと思う。建築を唯冷たい物質の構成と考えず、内容的な事から教育する事が大切だと思う。例えば椅子を教えるにしても寸法で教えず、その用途から教える。良い素質を伸すには工高の目からの教育が必要である。

森 目からと云う問題、フランスでは全部幻燈で教える。幻燈で拡大されたものに先生が鞭で指し示しながら

批判を加えて教える。幻【ばえして、しるし】という。日本でやる図版等はむしろ金が掛る。

元良 ホテルに滅多に泊つた事のない人が、ホテルの説明の仕様が無いのだが、自分が教えるのは映画によつて得たイメージによる。映画を観る事は学校で奨励すべきだ。自分は2度観ると云つて居る。

驚尾 学校の先生方の考へて居る事と思うが、業界では学校のデザインの最低限度を何処迄やつて欲しいと思つて居るか。

塚本 図面でその人の性格は多少判断が付くが、最低線を何処へ見ればよいかは難しい問題である。

元良 例えば直ぐ詳細図を引ける程度ではどうか。学校出立てのものに詳細図を直ぐ引かす事は出来ないだろうか。

森 詳細図は無理だ。そのモチーフを考へて断面図を描いて、水切のある事位は知つて居て貰いたい。その種類等は覚える必要はない。自分のプランはまとめる事はするが他人の描いた図面は少くとも理解出来る様になつて欲しい。

元良 詳細図を教えると一つ覚えをするのでラフな事を教えて事務所の方の特色になじむ様にさせて行つて居る。

塚本 スケールとボリュームの感覚を持つて欲しい。

森 例えばドアの開き方を内開きにすべき所を外開きにしている。日本のドアの開き方は押入の感覚から来て居る。オフィスの廊下に外開きをする様な事はいいけない

驚尾 欠席者の意見を読む。坂「出張中に付き失礼致します。座談会の題目は「これからの建築技術の学校教育はどうあるべきか」とすべき内容ではないでしょうか。右一言書面参加致します。」徳永「15日より19日迄出張の予定にて残念乍ら出席出来ません。一寸気の付いた事を申し上げ御参考になれば結構です。意匠教育でコルビジエーが出ればコルビジエー氏・ニューマイヤーが出ればニューマイヤー氏とその形のみ追求したり真似る様な傾向が学生にあります。その様な時に意匠の底を流れて居る自由な思考、造形の世界の創造の精神を真に把握してその基礎に立つた創作を生む様にしたい。その為に社会を知ると共に真に科学的な精神を確立する様な教育を望む次第です。非常に抽象的な説明になりましたが、よろしく。」

亀井 別の見解ですが、私の所の学制の改革になつてから、目標をデザイン構造の中層を取つた方向に進んで居る。生徒はどつちに向くか、分らぬがその個性を見付けて指導すべきだが方針としては両方に偏しない方向を採つて居る。こんな方向は業者の方にとつては如何ですか。

中野 先程の続きで、最低線の事だが学校では基礎的な事だけはやるときいて居るが基礎的な事の解釈、ここ

99 では学校でやる。後は引受けると云う線、今の学制の中でここ迄はやつて欲しいと云う事を云つて頂くと学校は都合がよい。それを聞かせて欲しい。

池田谷 大学を出ても、我々の所へ来た時には、始めはお金を貰える仕事はして居ない。2、3年して始めて1人歩きが出来る。実業学校の方にお願ひしたい事は、便所の事でもよいから之だけでは何でも知つて居ると云う基礎的な事をやらせて欲しい。定められた学校の教育で最低限でよいから一つのものをまとめる事は大切だと思う。

鷲尾 最低とは間口を広くしての最低かせまく深くの最低か。

滝沢 まとめるという事は難しいことだ。学校へは棟梁的な人物ばかり来ないからね。

池田谷 棟梁になる下地を作る事が大切である。

益尾 生徒数が多い事は卒業後の需要を考えた上で多くなつたのではなく親達が出た後何とかなるだろうと云う考えで学校に入れている。之等の人達を学校を出てからどんな職につかすかということに問題がある。思想の問題で好ましい問題のない人を作つて欲しいと云う人も居る。

滝沢 7府県で1500名をこなす事は大変だ。旧制大学だけでも日本には建築学学生が多過ぎた様な気がする。しかも現在の如くふえれば結局人口問題だね。そこで学校とは日本を混乱せしめる人間を養成する所だという事になり兼ねない。

犬束 兵庫工高も2クラスになつたのに困っている。次の年から80名中20名を図案科にしようとして居る。望まないのに人数が多く入つて来るので何とか逃げねばならぬと考えて居る。兵庫県の工高関係でも打合せて居るが、人口問題と学校の配置は難しい問題だ。産業人口についての色々の調査があるがどうも産業面を立てるのに工高が多過ぎる。産業の開発が発達しない限り難しいだろう。

鷲尾 とうとうこの難しい問題が出た。今日は此の難しい問題に触れぬ積りで居たが之からも機会を作つて論じたい。

中野 身体が丈夫で好ましい人格を作ることはいつの時代でも変らぬ目標であるが、職業に関する力は学校時

代に受けた学問的体系のままの教育は問題であると思う。職に就くために学問をして居るのであるから教材は現場から持つて来てそれを体系附ける事がダイナミックな教育ではなからうかと言う事が今問題になつて居る。3年間の課程で能率的に教育するにはどうすればよいかと云う教育の合理化の問題がある。身体が強いのみでなく職に就かねばならぬ。そのためにどんな要素を入れて欲しいか。その事に関して原稿にでも書いて頂いて参考にしたい。

森 池田谷さんの云われた何か一つまとめる事、例えば建築規準法をもつと問題にする学問もあつてよいと思う。規定に応じて事を知ること最低限の事としては必要である。規準法を3年掛つてやらしても良いではなからうか。

中野 難しい事を知るより簡単なそして必要な事を知ることが時代に適するのではないか。

長尾 卒業仕立ての生徒の図面を描くスピードは今の程度で良いか。もう少し早い方が良いか。工高生として現在の程度でよろしいか。

安井 建築士の試験問題だが之は実際問題から離れて居るので実際建築に役立つ様教えるべきか、建築士に適する様教えるべきか迷う。

鷲尾 その問題は次の機会にゆずりたい。

上林 人口問題が出たが私の方にはこんな学校もある事を知つて頂きたい。一主意書を配る一

中野 日経連の調査であるが卒業後続けたい学問と必要のない学問を調べた所、こちらが力を入れた学問に△左程大切とも思わない事に◎をつけて居る。これから学校教育の問題を考え直さねばならぬと思う。

鷲尾 実は1時間も超過して申し訳ない。申し上げた通り委員会としてはいつ結論が出るか、分らない事を覚悟して乗り出した企画で外のグループをもねらつてやるし或は2度、3度と又御意見を伺いたい。最後は産業人口の構成に迄行く大問題であり、お忙しいのに御迷惑だが機会を作つて協力を頂きたい。御意見は速慮なく協会宛或は個人宛でも良く葉書でも頂きたく発表すべき事は編集して出版する。又御意見を聞いてこの仕事を進めたいと思う。学校の方には御迷惑だが協力を願いたい。学校教育、日本技術のためにも大切な問題である。長らく御協力を仰いで有難い。

山本 工高連盟の代表として一つお願いがある。業者は図面の秀れた者天才的な者を望まれる傾向がある。学課が悪くても図面の良い方を探る傾向があり勝ちであるので全体的に将来伸びる人が割合犠牲になり易い。教育的に見て、平均的に頭の良い人の採用という線に沿つて採用して欲しい。この事を連盟でも願つて居る。全体的に秀れた人を選んで其れを指導して頂きたい。

(第1回設計関係 終り)



床の清掃維持方法に就ての
(9月20日建築会館に於ける講演要旨)
プリント御希望者はお申込下さい

ケントク
Kentoku

家屋の豊出

清掃作業も
御月受します

大阪・北区豊橋(産経ビル前) KK ケントク
東京・神田小川町1(三勢ビル) 東京 ケントク
名古屋・藤前 泥江町2ノ1 KK ケントク

材 料	反 射 率	材 料	反 射 率
塗 料		稲 田 石 (茨城県)	42.2
漆塗 (コンクリート地)		小花崗石 (茨城県)	26.8
金 色	68.5	本丁場石 (神奈川県)	14.0
溜 塗 色	7.5	本御影石 (兵庫県)	38.2
黒 色	4.4	白丁場石 (神奈川県)	38.5
濃 緑 色	8.9	大 谷 石 (栃木県)	41.6
朱 色	18.1	浅 黄 石 (静岡県)(機械切り)	44.0
石 材		石 版 石 (宮城県)	12.2
花 崗 岩 類		鉄 平 石 (のみ切り)	12.7
水磨仕上げ		小叩上げ	
渡良瀬石 (群馬県)	40.5	大 谷 石 (栃木県)	44.2
羽 黒 石 (茨城県)	37.9	小花崗石 (茨城県)	44.8
桜花崗石 (福島県)	25.8	万 成 石 (岡山県)	42.5
大 島 石 (愛媛県)	27.9	白丁場石 (神奈川県)	38.3
花 崗 石 (山梨県)	25.2	稲 田 石 (茨城県)	52.3
正 儀 石 (岡山県)	41.0	本御影石 (兵庫県)	43.5
徳 山 石 (山口県)	36.3	白 河 石 (福島県)	29.4
北 木 石 (岡山県)	32.2	北 木 石 (岡山県)	48.4
万 成 石 (岡山県)	36.4		

新 製 品

ノザワ フレキシブルシート

特長 可撓、耐衝撃、耐火、防湿、防音、不腐、不錆、防崩、軽量、着色自由、切断容易、釘打可能、素人施工可能

用 途 室内外壁用及間仕切、ドーム型天井及屋根、飛行機自動車等の格納庫、化学工場の天井壁、病院の内張廊下等、食堂待合室の内張、船舶の室内仕切、天井、調理室の内張、円型室や廊下の壁天井腰張その他

寸 法 3尺×6尺 4尺×8尺 厚味2耗 3耗4 耗5 (耗以上が標準)

◎石綿鉾山 北海道 ◎セメント 工場彦根 ◎スレート工場 神戸・彦根・東京・門司

神戸市生田区西町36 (興銀ビル)



野澤石綿セメント株式会社

電話 元町 ④ 4861-3

御用命は下記営業所へ御仰付け下さい

大阪営業所 大阪市西区土佐堀通一ノ一 大同生命ビル 電話土佐堀④ 581・2848

神戸営業所 本社と同じ

外 札幌・東京・名古屋・彦根・広島・門司

工学はどこに問題を求めるか—構造學者の

学会近畿支部研究会の構造学部会の主催でラーメン学に関する討論会が昭和27年8月2日大阪の大林組であつたので、傍聴に出かけた。会場の連絡をはつきりうけていなかったもので、清水組、朝日ビルと迷い、1時間ほどおくれ顔を出したら、主報告はとつくに終つて横尾教授の司会で討論をやつていた。最後に(?)横尾君がまとめた時の発言によると、(少々聞きちがいがあるかもしれない)、「ラーメン学は(1)無限小の細い線構造、(2)弾性体、(3)静力学という仮定の上になりたつてゐる。この仮定をつくつた人はたれか知らぬが、とにかく頭のいい仮定である。しかし現在はその仮定自体の反省期になつてゐる」ということであつた。

そういう仮定の上に、学問的にあたかも数学の式を展開していくように繁茂したのがラーメン学であつたといえる。無論ラーメン学の追究によつて構造が経済化されたことは否めない。机上計算でも初期の鉄筋コンクリート構造に対し、今では20~30%の材料節約が実現されているという。けれども学問の問題としてみると、ラーメン等の精緻化(?)は理論的遊戯とまでいえるほど細かなところへ發展して行つたのではなからうか——と我々門外漢は感ずる。このことは私が聞き得たわずかの間にも出た色々の発言の中に感得しうる。

「構造の方は大体予算できまつている。計算はあとで合わせていく。安全率で加減する……」

「ラーメン計算なんてインテリの失業救済だ」

また学問を職人的に考えている人たちは、この方面に今までのように「能率のよい、引あう研究」がなくなつた——という風な表現で、事態を説明する。

このような現実には正常なセンスをもっているものは、当然疑問をもつてくる。

坂教授もはじめラーメンをやつていたが鉄筋コンクリート研究の手段としてやつていたので、それに一応の目安をつけるとサツサと引あげた。こういう考え方が必要

だ。ラーメン学、いや構造学全体に新たな転換が必要なのでなからうか。ではどんな転換が求められているのか? まず実物の構造にかえれ、現実から問題を拾ひ出せ、さしずめ建物診断などその一つのカギでなからうか——驚尾教授などによつて主張されたこういう意見は、問題を現実の中からひろひ出そうとする、工学者として正しい態度だと思つた。

建築がどうしてこわれるか、そのこわれた方を研究する必要がある。「大体土木の連中はけしからぬ。水が出たといつて堤防が切れ橋が流れる。こわれるのが年中行事になつてゐる。建築の方は一つ建物がこわれると大騒ぎ、福井の百貨店など地震の看板につかわれてゐる。建築はもつと……」という風な脱線もあつたが、これは危いという構造物が荷重試験をやると大いパスする。これでは面目丸つぶれだし、第一こわれる機構がわからねばこわれぬ建物は自信をもつてつくりえない。

品質管理ということももつと科学的にやるべきだ、今のテストピースはテストピースになつてない。だから建物診断も信憑性がないのだ……。

こういう様々な議論は、現在我々技術者がそれをよどころにしている「現場の仕事」、これを要約する data というものの信憑度が非常に問題だという事につながる。20%とか30%とかの誤差ならまだいいが、ここで不信をかけられている data は何倍、或はケタの問題であるようだ(ケタをまちがつてこわれたという工事はあるが、それ以外には計算のエラーとして問題がおこつたことはないという話も出たが)。

こういう現実と精緻な学問とを結びつける方法として学者たちはどんな対抗策を考えるか?

研究室の学者は「品質管理」といつたような、すべてを規格ずくめでガツチリと規定していく方法を提案する。無論それは行われるべきだ。しかし現在の鉄筋コンクリート工事の方法で、特に現在の日本の経済的条件の下で

殺虫ペイントの新輸入

毎年のことではあるが、春から夏、秋にかけて蠅、蚊、蟻等の昆虫類の発生に悩まされる吾国では、近年これが発生防止や駆除に、関係官公庁及び、一般国民の間に非常な関心を持ち伝染病の媒介者である此等の駆除掃滅は今更ら申すまでもない。そこで最近日本に於て殺虫効果を発揮し、而もその殺虫効力を数年間持続すると言う「殺虫ペイント」が輸入せられ室内塗料として優美であるし、「建築用ペイント」として一般に普及せられること

にでもなれば、日本に於ける「建築用ペイント」界の革命となると思う。

この「ペイント」は「キルコート」と称し、東京では丸ビル階「日米特殊塗料株式会社」で、大阪では「大阪市東区北久太郎町2の17、朝日産業株式会社」で販売している。本塗料は、吾国に於ては、国立予防衛生研究所等の諸研究機関で、実際の試験研究をせられた結果、その成績は良好である。

予研庶第889号 昭和27年5月30日

殺虫効力検査成績書 国立予防衛生研究所長 小林六造 閣

1. 製造業者(依頼者) 日米特殊塗料KK

三 卯 山 西 — 辯 漢 外 門 した に出 合 会

米軍指揮下の工事ならいざしらず、これが可能かどうかは疑わしい。それはおそらく建築のコストをあげ、中小企業を脱落させ、日本の投資家たちはそれに堪え得ないであろう。

これに対して現場の学者の一人は、設計者の人格をもっと重視せよという意見を出した。はじめて鉄コンの建物をつくったとき、何某博士の設計というので皆緊張して工事をやつた。それで量質共に信用のおけるものが出来た。今のようにネコも杓子も一級建築士になつたのでは駄目、そのなかに更に一段高いクラスを設けて設計者に重みをつける。そうすれば多少精度の高いものが出来よう——という。これは古風な考え、実現はおぼつかない。果して何某博士先生の設計で現場の職人や自由労働者が「感奮興起」するかどうか疑わしい。それにこういうシステムは建築物にも建築業者にも階級をつけ、結局大資本擁護の主張になつてしまう。

私がこの会合に出席して最も大きな驚きを感じたのはここにあつまっている学者、研究者が「建築は一体誰によつてつくられているか」という問題を意識していないこと、或はこれを学問と関係ずけて考えてみようとしていないことである。そこでは、現在の社会組織の中で技術者を科学者があたえられているワタの中だけに安住(?)しきつていて、それがどう変つていくかに無知でありながら一とかど前途を見とおしたような自信をもつて将来が論ぜられている。働くものと働かせるものとが今真剣にせりあつているこの日本のおかれているはげしい情勢をも知らぬげに。

data を総局的に管理するものは働いている労働者である。いかに科学的管理方法や、フオードシステムをもつて押しつけて行こうと。私は新中国の東北を舞台としてつくられた「新しい事物の前に」という戯曲をよんだが何よりもここで技術者として胸をつかれたのは、自らの足でたつた労働者の創意の前には「偽隣時代」の data

がものをいわなかつた事実である。

今日、建築構造学によつてもつてたつ基礎的な data (それは生産と科学とをむすびつけるきづなである) の中には、無論工業技術の高度化によつて殆ど確定的に出てくるものもある。しかしそれさえもそれをつくり出す個々の労働の質によつて大巾な働きがあり、安全率に大巾にげ場をたえず用意しておかねばならない。しかしより大きな大部分の data はまだ多く労働者の労働の質にたより切つている。

この事を一応拾象して——あるいはある一定の職制的支配機構を通じて強制しうる質を見越して、その上に構造学が自らの仕事を行おうとしているとき、その土台の「精度」と無関係に「精緻」な研究をやるなどということとは全く世捨人的センスだといわねばならない。

この土台の精度をどう高めるか——単に上からの「科学的管理」でなく、労働の条件を根本的にかえることによつてその「精緻」さを本当に生かせる道があること、そういう解決の道をにらみつつ学問的課題を現実の中からくみ出してくることが、現代の工学者にとつて必要なことだと思う。ラーメンをいぢくる前に、多少目の先をみてほしい。例えば鉄筋コンクリート構造をとつてみると、現在のように本質的に現場施工であるような段階から、一層精度をたかめ経済的利益を増進する工場生産へうつすためにはどんな条件が必要か、その場合構造等の質も当然それに応じて変るであろうような変革自体を、それをくいとめ、或はうごかしては大きな歴史の流れを、構造学者の切実な問題としてとりあげてほしいと思う。

「現実の構造をみつめよう」という研究会での学者達の発言を、私はそういう意味にとりたかつた。学者たちの眼がそのように開かれるとき、日本の構造学は植民地的なものから、本当に自分の足で立つ構造学に発展する道が開けていくと思う。(筆者 京大工学部教授工博)

検査成績《その一》

- (1) 供試昆虫 キイロシヨウシヨウバ工成虫(雌雄比は大体1対1)
- (2) 実験方法 キルコート有色分、キルコート透明分をそれぞれ経9cmのシャーレの底にしいた漏紙に均一に塗布し(同様のシャーレを5個宛作る)1日放置して乾燥後供試昆虫を入れ、シャーレを逆にし(キルコートの附着した漏紙が大井になるように、(所定時間、28度C、湿度73%の恒温恒湿中で接触終了後更に清潔な漏紙をしいたシャーレに移しかえ、24時間飼育した後に生死を調査した。接触中も接触後飼

育時も5%糖液を脱脂綿にしませて給与した。

- (3) 実験成績 (A)キルコート(有色分) (以下略)
死亡率をプロビットに変換、これを縦軸に接触時間を横軸にとつて別紙グラフを作製(グラフ省略)か
りの時間——死亡率帰線を引き、中央致死接触時間を求めた結果、大体2.5時間接触で50%の死亡率を示す。
- (B) キルコート(透明分)別紙グラフ(グラフ省略)
により中央致死接触時間を求めた結果、大体2.5時間
間で有色分と大差がない。 以上

大阪府立結核療養所羽曳野病院建設工事概要

大阪府建築部営繕課

結核撲滅対策の一環として、大阪府では一部国庫補助をもつて26年度より3ヶ年計画をもつて、病床800床を有する結核療養所の建設にかかり、さる昭和27年11月末日をもつて、第1期及第2期工事として、本館及病棟約300床分を完了したので直ちに開発し、引つぎ患者を収容しているが残りの約500床分は28年度に於てこれが建設を実施する予定である。

本療養所の敷地は大阪市の南、近鉄古市駅を西へ、徒歩約20分西浦村及植生村にまたがる面積56,000坪の丘陵地で、本館及病棟は南より北にゆるい傾斜をもち、はるか北に大阪市を見下ろす植生村に、又看護婦宿舍及公舎はこれと道路をへだてて東に隣接する松林にかこまれた西浦村の一角に建設された。

建物は本館及これより各病棟に通ずる渡廊下は鉄筋コンクリート造、病棟、看護婦宿舍、公舎及其他の附属建物は何れも木造防火構造である。

本療養所は完全看護、完全給食を建前としているので設計についても看護婦の作業を中心として計画し、又医療品の支給方式としてサブライセンターによることとしたのであるが、これも本邦においては、未だ一般に採用されていないところであつて、今後の運営如何によつて

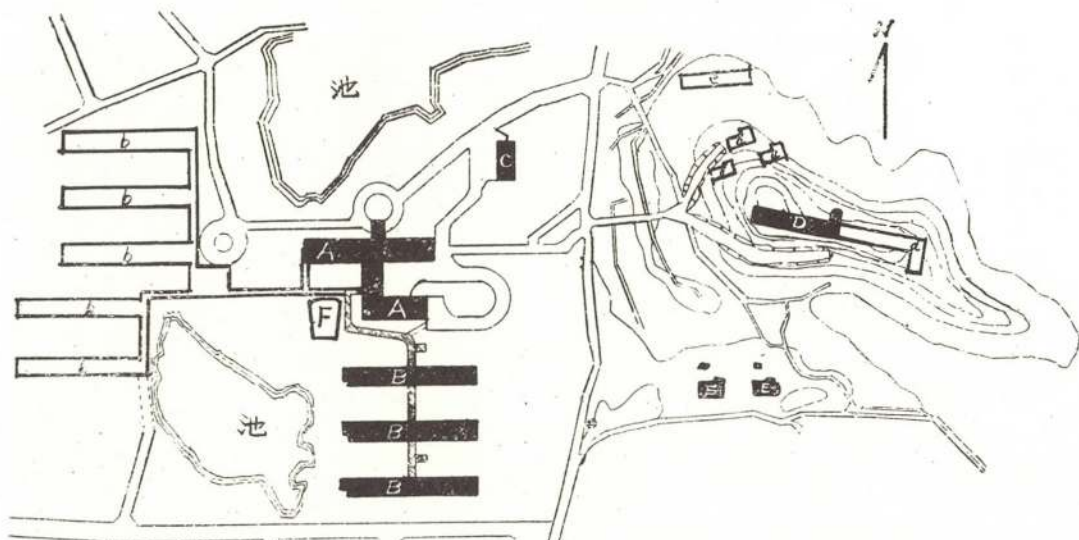
病院経営の上に可成りな利益を齎すのではないかと期待されるのである。建物内部の色彩については患者の心理に及ぼす影響を考慮して、手術室をはじめ、各診療室、病室等すべて、壁、天井をペンキ塗りとした。病棟は個室、2人室、総室の3種類であつて、看護婦詰所其の他の管理部門諸室が、病室と殆んど同じ位の床面積を占めている。

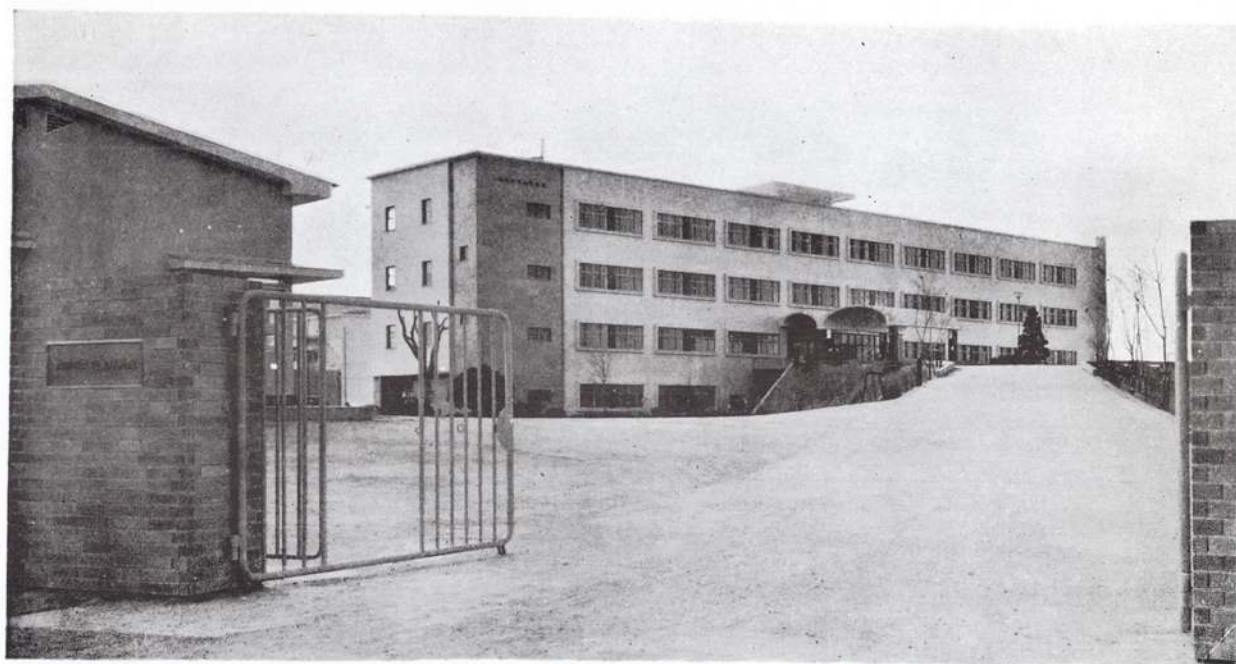
附帯設備について要点のみを述べると、電気工事は予備電源としてディーゼル発電機を設備し、停電時には自動的に切換えができる。各病室にはナースコールを取付け看護婦の作業に便ならしめている。本館エレベーター及渡廊下によつて、どの病室からも寝台車のまま本館内各室に運搬が出来る。給水源はさく泉により1日約1万石を供給する能力がある。其の他暖房、厨房、洗濯、消毒、給汽等の設備を有する。

本工事に要した費用は総建設費（土地買収費、備品費を含む）277,000,000円である。尙1病床当りの資料を概算すれば、建物の床面積は現在は約10坪/1病床となつているが完成時においては8.5坪位になる見込みである。従つて1病床当りの経費は完成時において630,000円見当と推定されるのである。

敷地及建物配置図

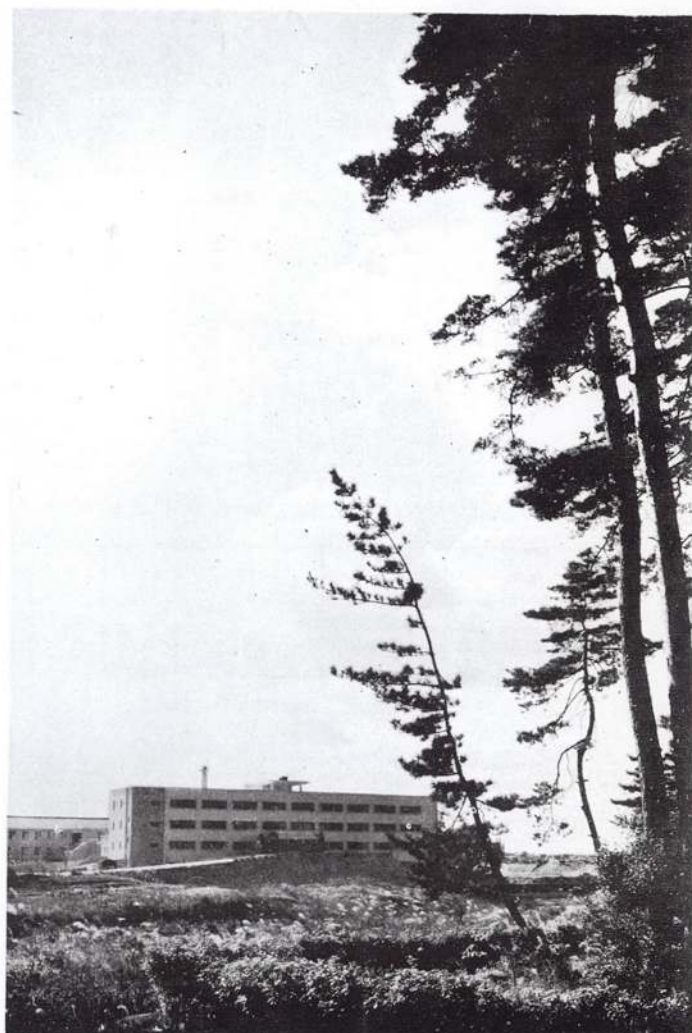
- A. 本館 B. 病棟 F. 講堂 D. 看護婦宿舍 C. 自動車庫
E. 公舎 b. 病棟予定 d. 看護婦宿舍予定 e. 公舎予定

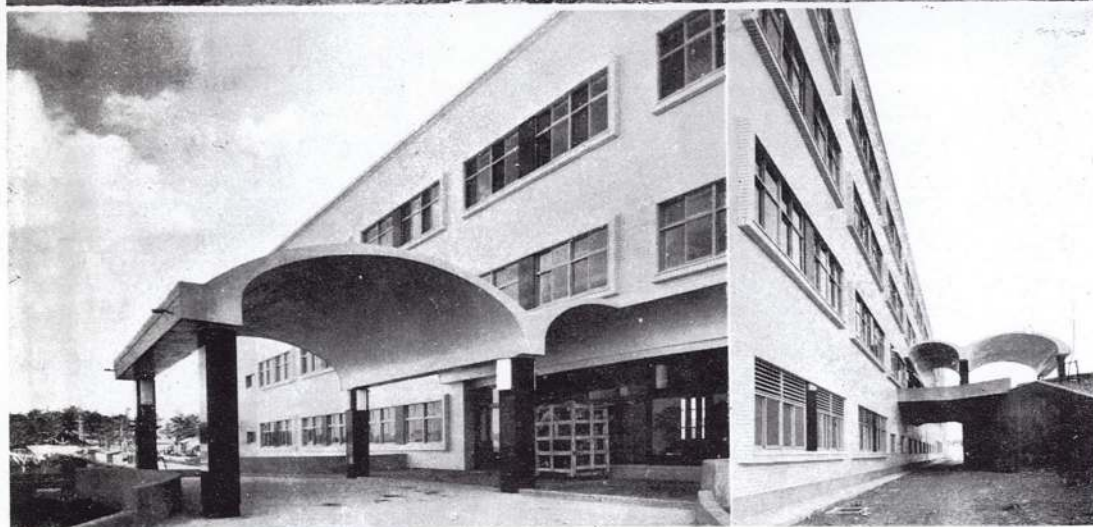




大阪府立結核療養所 羽曳野病院

位 置 大阪府南河内郡埴生村大字埴生野
設 計 大阪府建築部營繕課
施 工 主体工事 株式会社藤木工務店
 電気工事 東海電気土木KK
 衛生、給排水 (本館) 西川設備工業KK
 (病棟) 山田工業KK
 暖房工事 西川設備工業KK
 昇降機工事 三精輸送機KK
 東洋オーチスエレベーターKK
 自家発電設備 ダイハツ工業KK
 水源池、給水設備工事 株式会社桐田商会
 厨房設備 今木製作所 森井厨機KK
 病棟瓦工事 佐村木商店
 〃 建具工事 北野商会
工 期 第1期(本館)
 昭和27年3月25日～11月20日
 第2期(病棟其他)
 昭和27年7月10日～11月30日





本館

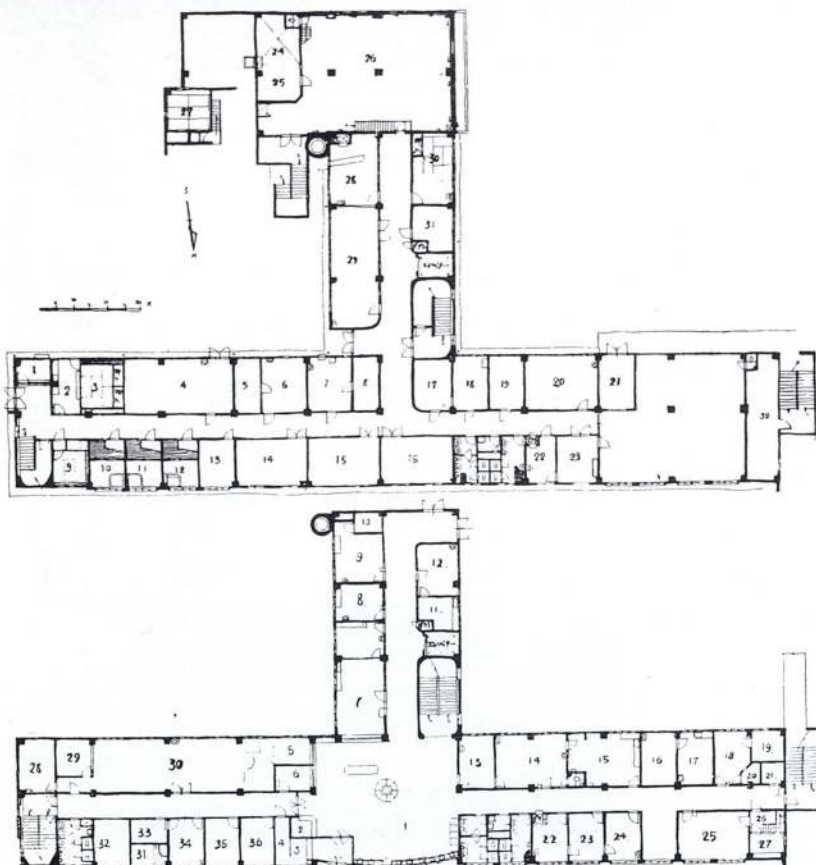
平面図説明

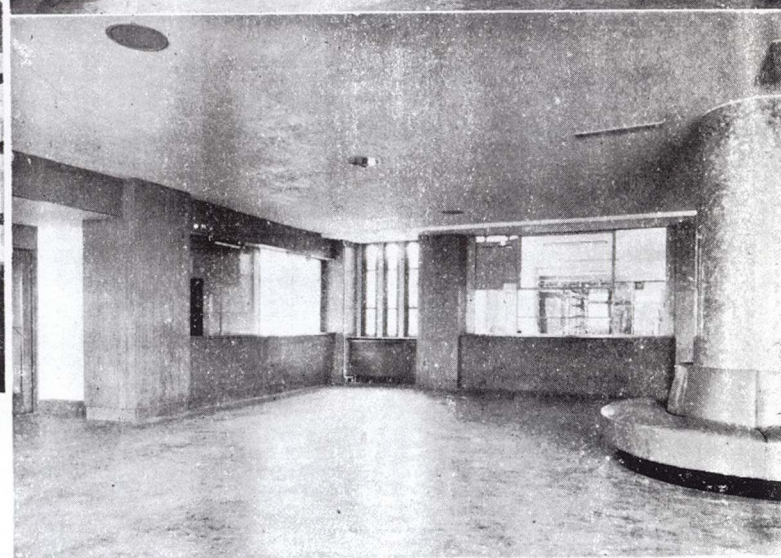
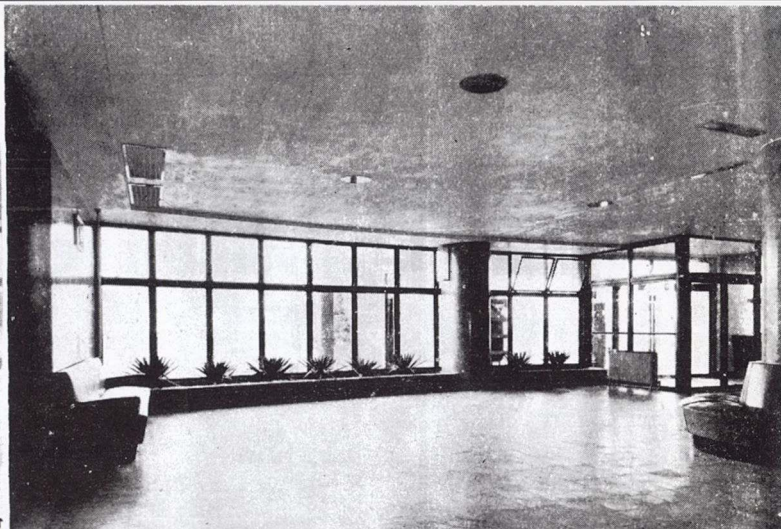
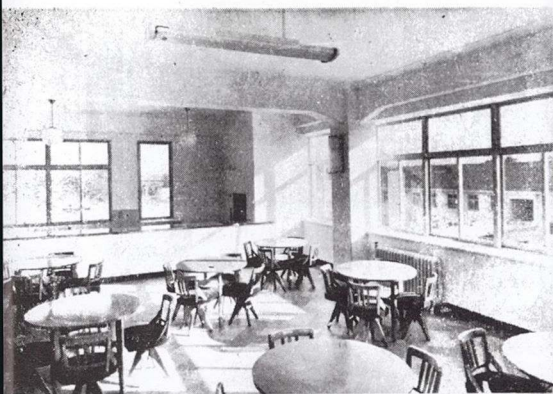
1 階

- | | | | | | |
|----------|------|---|---------|-----|----|
| 1. 守衛室 | 衛生室 | 室 | 17. 藥製室 | 品類室 | 庫室 |
| 2. 揚小修 | 弘使 | 室 | 18. 製藥室 | 爆品室 | 室 |
| 3. 修理室 | 作業室 | 室 | 19. 洗濯室 | 事務室 | 室 |
| 4. ロッカー室 | 従業員室 | 室 | 20. 洗濯室 | 事務室 | 室 |
| 5. 女子控室 | 従業員室 | 室 | 21. 洗濯室 | 事務室 | 室 |
| 6. 男子控室 | 従業員室 | 室 | 22. 洗濯室 | 事務室 | 室 |
| 7. 男子控室 | 従業員室 | 室 | 23. 消毒室 | 毒宿室 | 室 |
| 8. ロッカー室 | 直浴室 | 室 | 24. 火夫室 | 泊夫室 | 室 |
| 9. 職員室 | 浴室 | 室 | 25. 火夫室 | 泊夫室 | 室 |
| 10. 看護婦室 | 浴室 | 室 | 26. 火夫室 | 泊夫室 | 室 |
| 11. 看護婦室 | 浴室 | 室 | 27. 火夫室 | 泊夫室 | 室 |
| 12. 看護婦室 | 浴室 | 室 | 28. 火夫室 | 泊夫室 | 室 |
| 13. 看護婦室 | 浴室 | 室 | 29. 火夫室 | 泊夫室 | 室 |
| 14. 看護婦室 | 浴室 | 室 | 30. 火夫室 | 泊夫室 | 室 |
| 15. 看護婦室 | 浴室 | 室 | 31. 火夫室 | 泊夫室 | 室 |
| 16. 看護婦室 | 浴室 | 室 | 32. 火夫室 | 泊夫室 | 室 |

2 階

- | | | | | | |
|---------|-----|---|---------|-----|---|
| 1. 待合室 | 室内室 | 室 | 19. 機械室 | 械作室 | 室 |
| 2. 案下室 | 室内室 | 室 | 20. 機械室 | 械作室 | 室 |
| 3. 案下室 | 室内室 | 室 | 21. 機械室 | 械作室 | 室 |
| 4. 案下室 | 室内室 | 室 | 22. 機械室 | 械作室 | 室 |
| 5. 案下室 | 室内室 | 室 | 23. 機械室 | 械作室 | 室 |
| 6. 案下室 | 室内室 | 室 | 24. 機械室 | 械作室 | 室 |
| 7. 案下室 | 室内室 | 室 | 25. 機械室 | 械作室 | 室 |
| 8. 案下室 | 室内室 | 室 | 26. 機械室 | 械作室 | 室 |
| 9. 案下室 | 室内室 | 室 | 27. 機械室 | 械作室 | 室 |
| 10. 案下室 | 室内室 | 室 | 28. 機械室 | 械作室 | 室 |
| 11. 案下室 | 室内室 | 室 | 29. 機械室 | 械作室 | 室 |
| 12. 案下室 | 室内室 | 室 | 30. 機械室 | 械作室 | 室 |
| 13. 案下室 | 室内室 | 室 | 31. 機械室 | 械作室 | 室 |
| 14. 案下室 | 室内室 | 室 | 32. 機械室 | 械作室 | 室 |
| 15. 案下室 | 室内室 | 室 | 33. 機械室 | 械作室 | 室 |
| 16. 案下室 | 室内室 | 室 | 34. 機械室 | 械作室 | 室 |
| 17. 案下室 | 室内室 | 室 | 35. 機械室 | 械作室 | 室 |
| 18. 案下室 | 室内室 | 室 | 36. 機械室 | 械作室 | 室 |



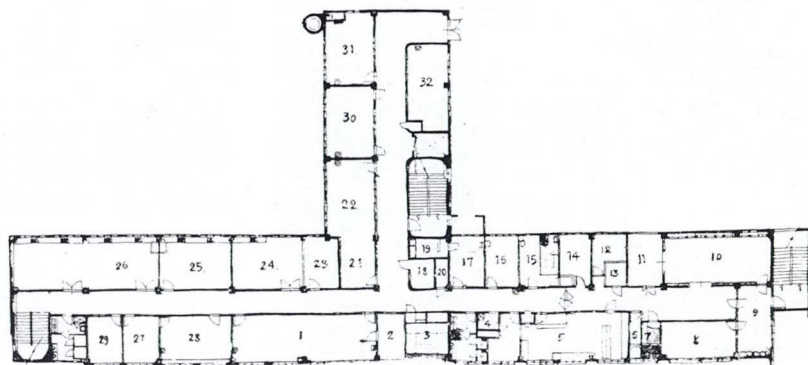


写真説明 上左 4階食堂日光室 上右 待合室
下左 厨房 下右 待合より薬局を望む

平面図説明

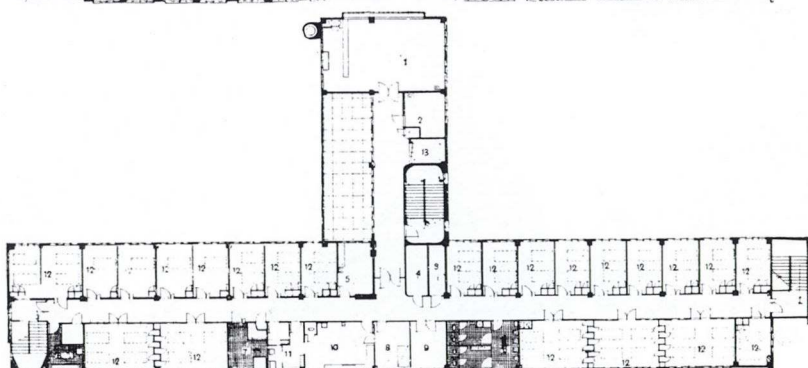
3 階

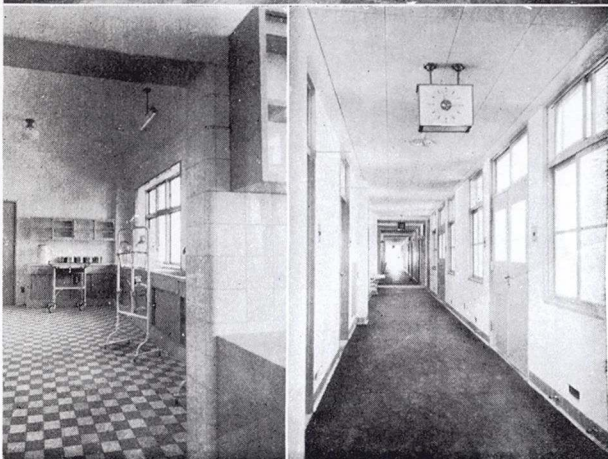
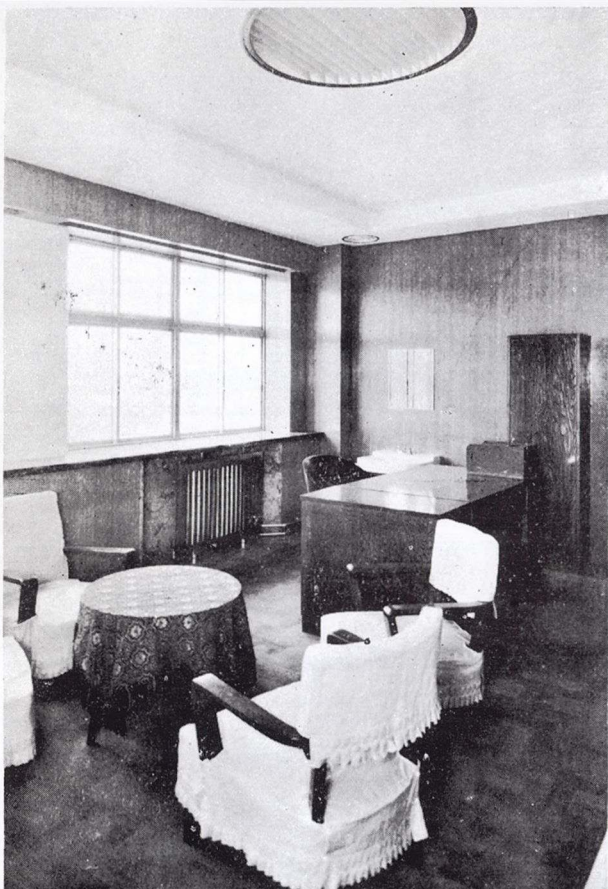
- | | |
|------------|---------------|
| 1. 医局 | 17. E. K. G 室 |
| 2. ツーカー室 | 18. 物置 |
| 3. 医師直室 | 19. 暗室 |
| 4. 掃除室 | 20. 車庫 |
| 5. サブライセン | 21. 書庫 |
| 6. 物脱衣室 | 22. 図書室 |
| 7. 手術室 | 23. 婦養室 |
| 8. 準備室 | 24. 総培室 |
| 9. 手術室 | 25. 研究室 |
| 10. 麻酔室 | 26. 研究室 |
| 11. 医師更衣室 | 27. 所長室 |
| 12. 材料室 | 28. 接談室 |
| 13. 看護婦更衣室 | 29. 応接室 |
| 14. 婦人科診察室 | 30. 議室 |
| 15. 肺機能検査室 | 31. 職員食堂 |
| 16. 肺機能検査室 | 32. 予備室 |



4 階

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. 食堂 日光室 | 7. 浴室脱衣室 |
| 2. 面会者待合室 | 8. 処置室 |
| 3. 寝台車室 | 9. 予備室 |
| 4. リネン室 | 10. 作業室 |
| 5. 看護婦詰所 | 11. 汚物処理室 |
| 6. 洗面所 | 12. 病室 |





構造、面積

(本館) 鉄筋コンクリート造4階建(一部地下室付)

建坪 444坪 延坪 1530坪

パラベツト高さ 55.4尺

(病棟) 木造2階建1棟 建坪201.6坪 延坪403.2坪

3棟合計

延 1209.8坪

軒高 26.25尺

(渡廊下) 鉄筋コンクリート造、本館、病棟を連結し、防火壁を兼ねる

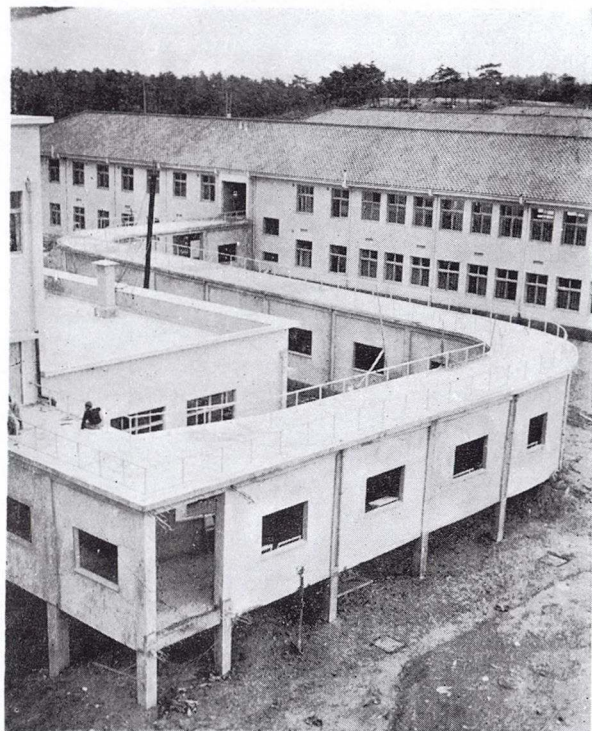
外装(本館) タイル張り、東北隅水磨花崗石張、外窓鋼製建具ペンキ塗仕上

屋上アスファルト防水、モルタル仕上

(病棟) 屋根塩焼瓦葺、壁色モルタル掻落し仕上、外窓木製建具ペンキ塗仕上

病床数 本館4階 個室4室、2人用室13室、4人用室6室 計 54床

病棟1棟分 個室10室、2人用室8室、総室32人用2室 計 90床 3棟合計 270床

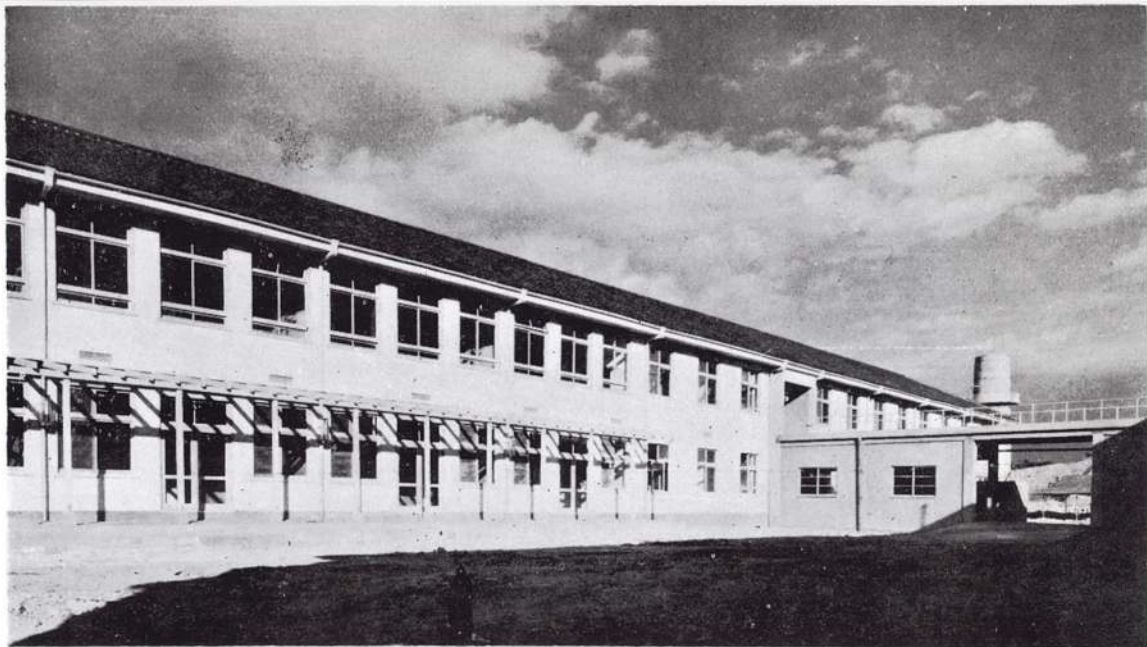


本館より病棟への渡廊下

主要なる室内仕上

(本館)	床	巾木	腰	壁	天井
中央待合室	アスタイル	アスタイル	練ベニヤ クリヤラツカー	プラスター ペンキ塗	プラスター ペンキ塗
内科診療室	アスタイル	アスタイル	ベニヤ	同上	同上
薬局	磁器タイル	タイル	タイル	同上	同上
炊事場	モザイクタイル	タイル	タイル	同上	同上
院長室	寄木張	堅木		練ベニヤ	同上
研究室	人造石研出	同左	同左	プラスター	プラスター
手術室	磁器タイル	同左	タイル	プラスター ペンキ塗	同左
病室	リノルウム	タイル	プラスター ベスキ塗	同上	プラスター ペンキ塗
(病棟)					
病室	リグノイド2階 フローリング	木製ペンキ	プラスター ビニール塗料塗	同左	サンライト

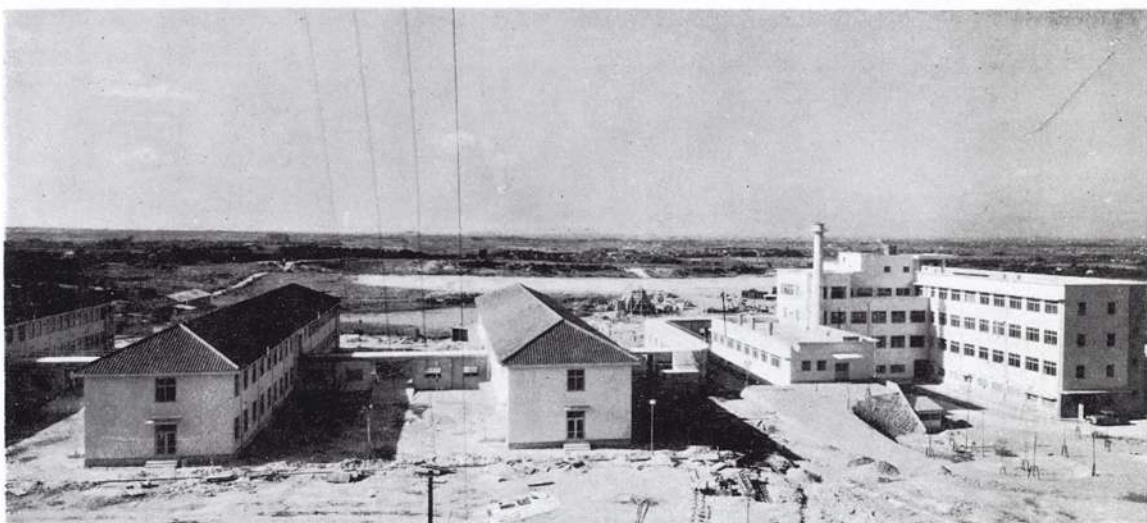
写真説明上より 1. 院長室 2. 3階医局 3. 治療室
4. 4階廊下



病 棟



病 室



背 景

家庭臺所のあり方

野田 義夫

1. 台所問題を採り上げた理由

日本の建築技術者の多くは公共建築の研究をしたがる。例えば病院とか学校とか倶楽部とか劇場とかその他たくさんある。

しかるに今私が台所問題を取りあげたのは、台所が人々の生活を支える上に重要な場所であり、研究材料が豊富に手近にあり、その効果について誰もが理解しやすいと感じたからである。

2. 問題の分析 その1

家庭台所を単なる家庭台所改善の現段階に終るものと共同炊事にするものと両方面より考えてみよう。

家庭台所の個別炊事は多数の婦人にとって収入乏しいため毎日苦勞の一つになっている。農村や工場で働く婦

人は共同炊事の手軽さ、割徳なことを認めていながら之を、我実生活に導入することに努力しない。

そこへ政府及宗教団体が家庭台所改良により毎日の疲れは軽減されると吹聴している。

だから殆どの婦人は、とにかく働きよい様各自の台所を改善したいと望んでいる現状である。全く、台所の改善ということは婦人の家事炊事生活が充分理解することなしに出来るものではないのであるから、金を支払つて職人に改良してもらう場合でも、手製で改良する場合でも婦人の意志によつてなされる。技術者は婦人の自主性のもとに之を援助するだけである。

統計によれば主婦1日の労働中、食物の買出しから食事の跡片付に6時間30分かけており、この外に子供の守や洗濯があつて教養の時間は殆んどない。ある漁村では流しといつては板石1枚、こわれ水甕1個土間にあり、入口の左に便所、右に流しといつた所がある。足もと悪く冬は冷えて頗る非衛生的である。洗濯も此処です。風呂桶を持出せば入浴の場所ともなる。此処でよい調理など出来る筈はないし、かがみ込んだ作業でいたずらに労力を浪費している。この様な状態では女性の進歩など考えも及ばない。日本の現状は、婦人の人格はあまり認められていない。婦人は何時間も無反省に家事に従事しており、男子は家計上手な妻が最もよい妻とみている。この様に婦人は圧迫されている現状であるのに、大阪市民生局児童課長はこういつている。今はパン、ウドン、罐詰、すしが出来、来客は料亭へいくから主婦に時間的余裕が出来、職業を持てる程になつたと。こんな事実を知らぬも甚しい人に指導されるんだからたまらない。大阪市社会教育課は台所改善を指導しているが、この点大阪の長屋の多い現在一応手軽に作業を行えるようになっておりうまくやれば経費も大してかからぬだろう。市は之を各地婦人会に頼母子講を作らせ、このやり方を広めようとしている。しかし之は頼母子講方式を最終としており、大きく発展させ国民的案を作ろうとはしていない。之では結局有閑人の遊びに終つてしまうだろう。

☆国营食堂は たえずソビエトに於て拡大しつつある。

1950年には18,000の新しい食糧品店、バー、レストラン、及その他の食堂、施設が、ロシヤ共和国で開かれた。

栄養—施設の普及網は個人の実習員、販売員、教養あるエキスパートで占められている。モスコウの栄養学校では豆料理人は専門化された知識の外に一般的な教育をうける。ここに示したのは最も美しい食堂で実習をうけている所である。



京都芸大の石原助教授は、京都、大阪の長屋台所改善案を出しておられるが、炊事場が前面道路に面している案は小人数家族なら使えるだろう。通り庭式案に対しては大阪市案同様、排煙、採光について考える余地がある。

(小面積のこの程度の建物は詳細図がなくては批評にくい)

3. 問題の分析 その2

次に共同炊事式について考えよう。炊事設備は公共施設、ガス、水道、電気なしには考えられない。大阪市大伊藤教授はこういつている。ガス使用制限と停電の準備に(コンロを置く)場所を予備にとつておけと。京都大学西山助教授は停電がおこれば停電ランプを作り出す者がいるが之からの日本は電力不足、ガス制限をなくする様根本的なものに目を向けねばたちいかなくと言つてゐる。1918年米騒動が起つて東京ではそのなだめ策として、16ヶ所の公設食堂を作つた。之などは慈善看板のものよりは比較的よいものが出来たと思う。之は中小商業が次第にたちいなくなり生活困難な労働者、小市民がふえて来ており之等の人を対象としていたのである。しかもその後この公設食堂は経費がかかるといつて減少させ、昭和14年には6ヶ所になつてゐる。

昭和10年大牟田市では市水道従業員の子供が疫痢で死亡したがその処置が悪かつたため、1万数千人の患者が発生した。之も炊事設備の欠点からである。第二次大戦中政府は侵略戦争を始めた結果、燃料不足、食料不足対策に工場給食をすすめ労働者には食糧の最低分量を与え家庭に統制配給の各個炊事でカロリー不足の責任を回避した。

戦後学校給食を始めたがパンの中にタバコの吸殻、ツマ楊子がざらに出た様な次第でその質は悪かつた。最近では神戸三菱造船では3千人の赤痢が発生した。

かく見れば共同炊事というものは、嚴重にして周到なる管理の下にあつて始めて有効であることが分る。そし

て広汎に行われて、集団相互に話合がなされてこそ、その有用性が倍加するだろう。それに共同炊事は最高の設備を利用する事が出来るし又しなくてはならぬ。

4. アメリカの個別食事方式

個人台所の最も設備の充実したアメリカでは各種の型と組合せを示した厨房セット通信販売の会社が沢山出来又月賦販売されている。電気冷蔵庫、レンジ、流し、排気ファン、粉ねり機等機械化され、ラツカーで塗られ、床は鮮やかなアスベストタイルで明るくされている。アメリカ人の活動性、或種の合理性、産業資源の比較的豊かさは、商業主義を高度に発展させ個人の消費生活の欲望を利用して婦人を解放することなしに、便利と美を売物にした台所設備と娯楽を求める様導いた。しかしこの様な個人台所に近代設備を取入れる事では本当に婦人が解放されるものではない。台所作業に従事せずすみ社会的生産労働に参加出来る事により解放されねばならぬ。それには托児所、公営食堂が必要である。そして之は政治的と技術的と国民習慣との三方より根本的に改造する事が必要だろう。

5. ソ同盟の食事供給

ソ同盟は1917年成立し、1918年全露婦人大会が開かれ新食事法が決議され、1931年には4300万人に1回以上公衆食堂で食事を供給するまでになつた。国家予算は工場食堂に出され、食堂従業員のためには高等食品技術研究所が建てられ、給食の基礎はモスクワ中央栄養研究所で与えられ、料理工場は充分な医学的衛生的監督の下にある。この集団給食は家庭食事の衛生、教育、経済に重要な役目を果している。公営食堂組織は出来合食事がどれだけ時間の助けになるか知らせる。家庭かまどは補助的なものとなつた。

6. 結 び

以上の現状と歴史の上に立つて最後に私の意見を述べよう。台所改善はこう始めるべきだ。個別的な修理改良により進む方向と更により案を示し啓蒙的教育活動をしつつ進む方向と二方向を常に持つことが必要である。そして使用者の意見を充分聞き、たえず改良してゆくべきだろう。この普及とか批判とかは個人間でなく、例えば婦人団体とNAU或は建築協会と、それも地域のよりも全国的へとより大きいブロッグになればより實際的なよい案が出来るだろう。

金さえあればアメリカの様に個人的問題として解決することが出来る。だがこの気持は最も重要な共同炊事の必要性を各人が自覚する機会をなくするから私は賛成出来ない。終りに臨んで諸兄の批評、御意見御指導をお願いします。(筆者 関西建築技術研究所員)

合資会社 大阪市北区木幡町三番地 電話堀川 四一六四番	合理的工法・責任施工	防錆完全・中空防音	耐震・耐火・軽量・堅牢	採用下さい	は日進式を御	を・軽量鉄骨	に軽量鉄骨	間仕切・天井
	合資会社	防錆完全	耐震・耐火	採用下さい	は日進式を御	を・軽量鉄骨	に軽量鉄骨	間仕切・天井
	合資会社	防錆完全	耐震・耐火	採用下さい	は日進式を御	を・軽量鉄骨	に軽量鉄骨	間仕切・天井
	合資会社	防錆完全	耐震・耐火	採用下さい	は日進式を御	を・軽量鉄骨	に軽量鉄骨	間仕切・天井

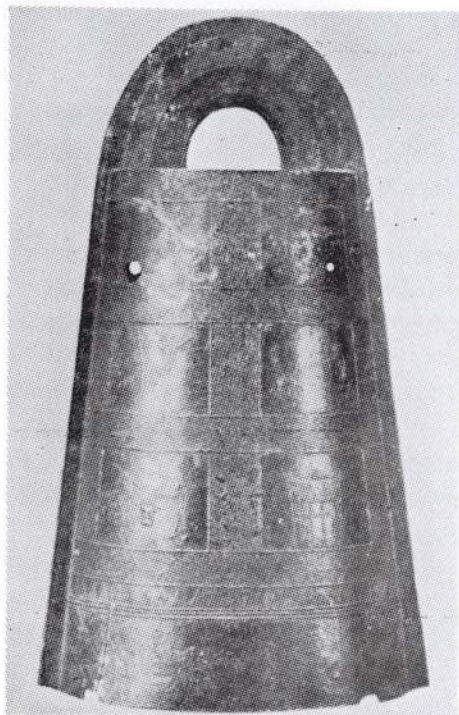
私たちの 建築史

(2)

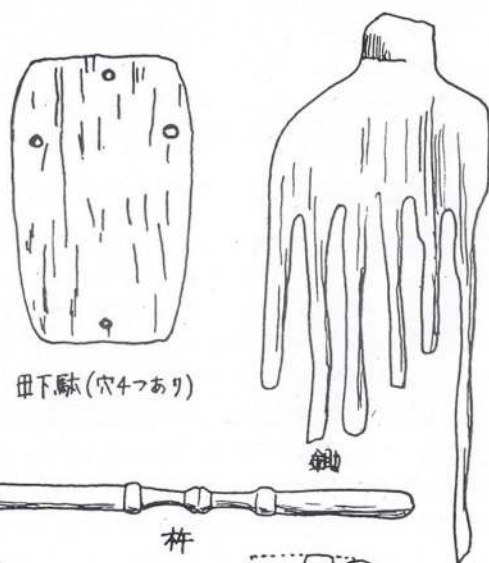
林 野 全 孝

第1期—その2—

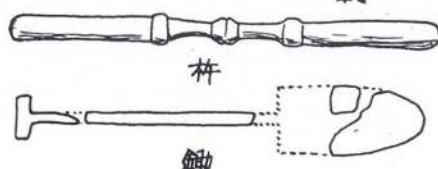
やがて、大陸から農耕の文化が這入ってきます。遺跡で最も古いのは、北九州遠賀川、板付、出雲の原山などです。又奈良県の唐古や宮滝、新沢、愛知県の熱田からは、前期から後期へと複合した遺跡が見られます。東へ行く程、大体新しくなりますが、約2～3世紀に涉るこの文化は、概して、さしたる変化はありません。第8図の農耕具や、第9図の銅鐸の図を見ても、生活の



第9図 香川県出土銅鐸（一種の楽器？）



田下駄(穴4つあり)



第8図 木製農具

一端がわかるでしょう。

前代と違って、青銅が石器と共に使われるようになったので、生産の技術もやや進みました。又土器もロゴロで大量に作られたようです。この技術も無論大陸から伝ったものです。それはいつ頃かと言いますと遺物の対比で想像出来ませんが、北九州遠賀川から出るモミは、北シナに発見されたBC±100年のものと同一種で、その源は、南シナ更に印度へとさかのぼるそうです。だから我が農耕文化は、BC±100年よりさかのぼることは、あり得ませんし、文化の伝る速度から言つて、農耕文化の上限を、西紀元年頃と見るべきでしょう。

登 呂 遺 跡

前代の住居址は、山の中や、湖の附近から発見され採取経済を物語っていますが、この頃になると、しめつた平地に進出します。無論田を耕すためです。その遺跡の内、一番大きく、又共同生活がはつきりわかるのは何といても静岡県の登呂でしょう。（昭和18年発見）第10図のように、約10万坪の敷地に、東には水田、中央に住居や井戸、西に高床の倉があり更に西には、大木の林があり、防風の用をなしていました。

水 田 址

矢板で囲まれたアゼが、土地を矩形に区切っています。一区が、600坪位と400坪位との二通りあるようです。後世の口分田は、男2段（600坪）と女はその3分の2段となつていますから、すでにこの時代に、このよ

うな制度が自然に出来ていたのかも知れません。

住居址

前代と良く似ていますが、地を掘らずに、土でアゼをつくり、その中に楕円形の住居を造っていました。

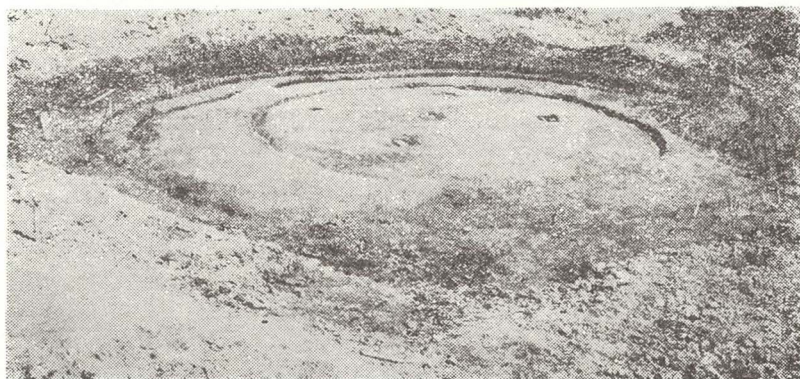
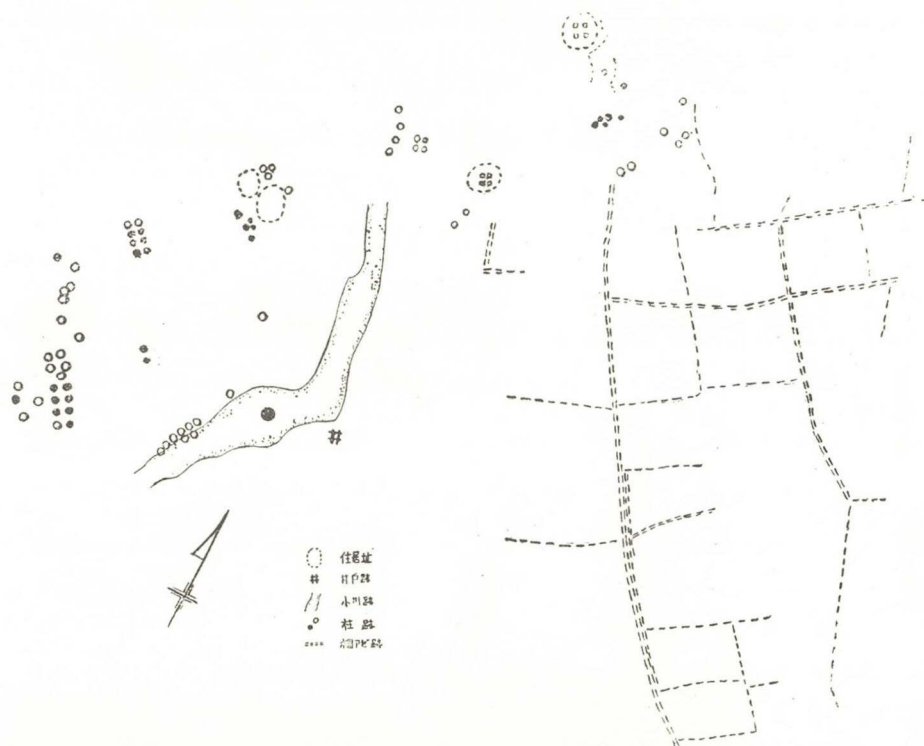
(第11図) 中央は炉で、4つの穴は柱です。柱穴の下には礎盤を置いています(第12図) さて、復原すれば、どんな家だったでしょうか。堀口捨己博士は、次の古墳時代の遺物である家屋紋鏡の図から復原しておられまし、又関野克博士は、鉄山秘書という古来中国地方の鉄精錬炉を入れる小屋について書かれた図から、この時代の住居を見、それとこの住居址を比べて復原しておられます(第3図) (建雑774号)

この住居と、前代の住居と最も変つている点はけむり出しの進歩でしょう。前代では、トツプライトのようにするか(第7図)放射状タルキの途中に窓を開けていたようです(第6図)しかしここでは、もう一つ上に逆にしたような屋根を造つたようです。尤もこれを証明する絶対資料はありません。(この点次号にも述べる。)

倉址

倉跡と思われるのは、2列に8本の柱が並んでいる遺跡の一群です。第9図に見られる高床の倉や、唐古から出た倉の畚や(第14図)又、登呂の倉跡から出た第15図のようなハシゴを見て、その原形を考えることが出来ます。

第10図 登呂全図(昭和23年現、日本考古学協会「登呂」より)



第11図 住居址
全景を南より望む

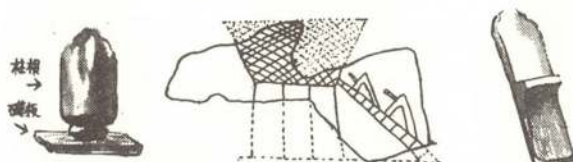
床が高いと、湿気を防ぎ、又ケモノ等の侵入をも防ぎます。このような高床は、今でも南方諸国の原始住居に良く見られます(第16図)これが農耕文化と共に、南シナに入り北シナ朝鮮をへて我が国に入つたとすれば、正しく南方形です。しかしこれが住居としてよりも、倉として用いられたのは、当時我が国には(恐らくは朝鮮、北シナでも)堅穴の戸を中心にした暖い冬形の住居があったからでしょう。尙岡野克博士が、登呂より出た資料等から復原された倉は第17図のようなものです。倉には主に生産された稲を貯えたのでしょう。

結 語

魚を求め鳥を追い、住居を転々とし、石器という不便な道具に頼っていた時代には、住居を建てることは大変困難な仕事でした。だから自然木を使った極めて簡単なものでした。

そして住居が只一つの建築物でした。しかし農耕という草の実を取り廻るようなことをせず、自ら生産する方法をとり、又家畜という完全に鳥をとらえることが出来る方法を覚えてから、彼等の生活は明るくなつたに違いありません。住居も定住出来ます。それに銅器が出き生産の方法も便になりました。しかし非常に生活が楽になつたのではありませんが、水田の方法や住居等今の農村とほとんど変わらない程に発達していた? (尤も今の農村が発達していないのかも知れぬ)のを見てもわかります。

水田、住居、倉、或は集合基地を見て、も一つ大切な



第12図 第14図 倉に登る人間の様子が簡単で面白い 第15図



第13図



第16図 ビルマ・メナム河上流の村落



第17図 倉、岡野克博士復原

ことは、決してそこに差別が見られないことです。つまり、全員が平等な働く人として存在しており、倉はその小社会の共有物であつたので、今で言う階級制は確立していなかつたのです。しかし、一人の母を中心とした家族の集りが、一つの村を登呂のように作つていたのでしょう。

(三月号に続く)

私たちの建築史(1) 正誤表

頁	行	誤	正
18	右中央		小序の上に一その1ー
19	第4図及第5図		をを入れる 説明文は左より記入
19	5行	で前記録時代	で、第1期は前記録...
19	23行	住居跡	住居址
20	左9行	長野県光石	尖石
20	左18行	身合墓制	集合
20	右7行	穴外し	穴有り
20	右10行	縄紋化	縄紋文化
20	右11行	を、広い.....	が、広い.....

時間的に校正出来ず、誤の多かつたことを謝す。

山 地 英 雄

社会は我々のささやかな良心や意志には関係なく、その自らの廻転を自らのリズムで廻転し続けてゆくようである。

個人の社会に期待する美しい夢も、庶民生活に対する合理的な設計も、すべて結局は社会の中の複雑な力関係のバランスの進展の前にはアツクなく抹殺されてしまつて、我々がそうあるようにと希望することは全く無関係の出来事のように、新たな時代は次々と気まぐれな新しい形をとつて開けてくる。

これまで我々は決して技術の探索や思索の沈潜に怠惰ではなかつた。我々は敗戦後いくたびか戦争の惨禍の上に打ちたてるべき設計図を真剣に書いたのである。我々にはあの、一面の焼土と廃墟を前にしたとき、「古い醜悪な都市と混雑汚穢な陋屋」が一掃されているのをみて今こそ新しい国土がそのあるべき本来の姿をとつて現れる絶好の機会だと悲しみを越えた希望と興奮に心をおどらせて、新しくして立派な住宅を、都市を、国土をとその計画と設計にくみついていつたのである。

が結果からみると果してそのどれが現実に見ることが出来る程の成果を実現したというのであろうか、結果はその為への計画にはらつた熱情と労苦にどれだけ値したであらうか。そしてこれに反して現実の力をもつた所謂住宅政策なるものは何の必然性があつて？何故？何処から？そのような内容をもつたものとして生れてきたのであろうか。又それと我々の考へた計画とのソゴは、その本質的な原因をどこにもつていたのであろうか。そしてこのような住宅政策にひくくおしつめられた現在の公営住宅は、果して技術的にきりひらいてゆく道を、今後まだもつていたのであろうか。又それは、それをきりひらいてゆくことは、真に意義あることなのであろうか。このようなことを考へて、私は以下この問題を取りあげようとするのである。

先ず1945年10月、越冬住宅として計画された30万戸の公営住宅建設計画は、戦後とりあげられた我々の住宅対策としては一番最初のものであつたが、その冬がすぎて春がきたとき、実際に建つていたのはわずかその中の81,150戸でしかなかつた。

次で1945年12月、戦災復興院では今後の都市住宅を次のような復興住宅建設案としてまとめた。即ち都市の住

宅は、専用住宅を80～85%とすること、初年度は12坪程度、後年度15坪とすること、2割の住宅は3階乃至6階建の共同住宅として都心部に配置し、あとはそれぞれ4割宛を長屋建及独立建とすること、そしてこれらは10ヶ年計画として当時の住宅不足385万戸をかかへた悲惨な国民住宅の問題を毎年50乃至60万戸の公営住宅建設によつて解決してゆこうとしたのである。がこの案は、その後何ら具体的な行政政策におこまれることもなく、ただ復興院の一つの計画案としてだけで消えていつてしまつたようである。

47年1月には、日本建築学会と国民経済会議とから夫々住宅対策要綱なるものが提案された。この両要綱の主張するところによると、その細部にわたつては若干の差異はあるが要するに当時の日本の国民経済が縮少再生産過程の危機にあること、その中で住宅経済の拡大再生産はきわめて困難なことであること、しかし住宅事情は巨大な損耗とその後の悪条件により産業復興の基底的障害となつて民生の安定そのものをおびやかしていること、これを改善するために劃期的な住宅政策が一刻も早く実施されるべきであること、と殆んど同じことをうたいあげているのである。

そしてその具体策の要点は、後者、国民経済会議案によると、

1. 建設費、家賃、生計費をめぐる住宅経済の根本的建直し、
2. 住宅供給に国家資金の全面的注入
3. 土建産業の改革
4. 不燃都市の建設
5. 市街地の宅地制度改革

をもつて住宅問題解決の前提とし、住宅法の整備、大部分の権能について決定権をもつ民主的な住宅委員会の設置、職場に直結した勤労者の住宅、共同施設を完備した集団化住宅、全額国庫負担の借家建設、重点産業と同順位の資材配給、民主的な住宅建設機構の創設と生産工場における高度規格製品の多量生産による建設、土建業の近代化、貸家住宅及宅地の国家管理、賃銀ベースを基準とする家賃の決定、住宅復興金庫の設置、調査研究機関の整備等々の項目をあげて対策を提示している。

更にこの外にも、この頃を中心としてすでに戦前にも

まさるはなやかさをとりもどした建築ジャーナルの背景の中から数多くの先輩によつて、個人的にか又は数人の総合研究として或は月刊雑誌や単行本の形式をとつて、幾多の復興計画が随分いろいろとあらゆる角度からくりかへしくりかへしとりあげられたのであつた。しかし、このように当時としてはその緊迫した住宅事情の中にあつて当然とらなければならない筈のこのように合理的ないくつかの提案に対して時の当局の示した反応は、その何れに対しても極めて冷たかつたようである。

この後、二、一ストのあとをうけて社会主義政策をかかげる片山内閣が組閣したのであつたが、この重要産業の国家管理を手がけようとした内閣でさへもその住宅政策だけは本当に粗末なお坐なりで終始し、期待した住宅対策の本質的なもの、即ち先の国民経済会議が住宅対策要綱として提示したような諸点には全く未着手のまま解体していつてしまつたのである。そして組閣以前に国民に公約した、1ヶ年庶民住宅の100万戸建設、国営アパート主義、大邸宅開放60万戸等という社会党のおもて看板であつた住宅対策は徒らに国民大衆の失望と公約不実行の不信とを深めただけで、この社会党内閣の解散と共に日の目も見ず消えていつてしまつたのであつた。このことは片山内閣という現象が、何等当時の我が国の社会段階の進歩ということの土合の上にたつたものではなく時代の断層に偶然浮かびあがつた極く表層的な現象にしかすぎなかつたということと共に、公営住宅の国家による供給、管理ということに連る一聯の庶民住宅対策なるものが、実は社会の生産型態の歴史的な矛盾というものに直結して、重要産業の国家管理によるサクシユの生産機構の是正というまわりくどい道なんかとはおよそかけはなれて、直接的な社会保障制度として社会の本質的なものに深くくいこんだ第一義的な社会問題であることを強く我々に感じさせたのである。

かといつて、現在いわれている左とか右とかいうマツシヨウ的な認識においてならば、社会がどうなうとも住宅問題は到底その終局において当然輝かしい解決に連る問題としては、我々の手にすくいあげられることはないようである。現在の我々に考へられるような単なる時間の函数としての社会の展開中では少くともそう言いうると思へるのである。そこではその住宅問題としての範疇を、精々、時代の動きと、それによつて動かされはするが併し常にそれといくらかの位相をもつてその動きを追つかけるその時代に生きる人々の住宅諸現象との果てしないズレ、ということの中でしかとりあげることは出来ないのである。現にそれが、我々の当面している住宅問題なるものの真実の姿なのではなからうか。したがつてここでは、個人の分裂症的な意見やエテ勝手な解釈

乃至はハツタリのないまわしい所謂政治的活動なんていうものは勿論であるが、いかに合理的とも見える技術的な解析や善意な政策的提案といへども、ことその住宅問題解決への本質的なものに関する限りは何の力をももつものではないのである。問題そのものの本質が始めからその解決の場の範疇外にあるのだから。ただ先にのべたように社会の本当の位置とそれにとりのこされた住宅諸現象とのズレをいくらかでもちぢめること、それを消極的ではなしに積極的に努めること、即ち時代の住居諸現象の社会現段階への非調和から調和への努力そういうものが現在の住宅政策としてはようやくそのいくつかの意義をしかも価値ある意義としてもつことが出来ているのではなからうか。

しかし住宅現象なるものがこのような未解決のままで永遠に続いてゆくものとは、もとより私は考へているものではない。……いつかは解決する……それは何時か？というそれは社会生産力が現在の我々の生活を支へているバランスのようなものを破つて飛躍的に上昇するとき、そして、我々の生活の概念そのものが量的ではなしに質的なみにおいて変化していつて新しい形にひらけてくるとき、そのとき必ず我々の住宅問題も終局的に解決することが出来ると考へるのである。この方向に進む推進力としては、現在の二十世紀文化をつくりあげた自然科学の更に偉大な進歩が先ず考へられなければならないであらう。現在の原子力なんかはこういう意味における重要な一つのエレメントをなすものと信じている。それはとにかくとして要するに戦後、我々が何回にもわたつて描きつづけた住宅対策は、庶民住宅そのものについては衛生的にも道徳的にもそして又環境的にも非常に美しく合理的ではあつたが、実際の現実はずしもそのとほりに進んでいつてはくれなかつた。

これは先にのべた住宅政策なるものの概念からいうとそれが調和なる現象であつたか或は調和への積極的な努力が足らなかつたがための非調和にみにくくゆがめられたというべき現象であつたかはともかくとして、要するに47年頃からの住宅諸政策をつくりかためる、もろもろの環境なるものは次第に我々のそのぞむところとは反対へ流れていつたようである。したがつて我々の具体的提案なるものも、ことその初めの志とは異つてやむをえず所謂「犬のおくれ吠え」的な或は「バナナのタダキ売り」的ともいうべきみじめな状態におちていつてしまつたというのが、残念ではあるが我々の住宅政策のいつわらない本当の現実であつたようである。その反対へのチョウコウの本格的なはじめは、先ず重要産業の資本蓄積をめざした「傾斜生産方式」によつて当時の大都市を中心とする住宅不足には直接関係のない辺鄙に、炭鉱労務者

住宅としての住宅をどんどん建ててゆこうとする多分に産業政策的な対策が、住宅政策の中に大きなウェイトをかけてきたことであらう。そしてこの「傾斜生産方式」の上に次第にその勢をパン回してきた我が国の資本主義態勢の圧力が漸次我が住宅政策を資本主義住宅政策としての形に生長させていつたのである。住宅法設置の遷延住宅金融公庫法設置による持家小住宅の増化、粗悪な公営住宅法の漸くの設置、そしてそのあとからその貧弱な公営住宅法をさへ公然とふみにじる予算面における財政的追討、公営住宅と金融公庫住宅との不合理な比率化、公営住宅の漸次縮小化等々当時から現在にいたるまでの一連の住宅政策の動きはそのことをものがる以外の何ものでもないのである。

以上は現行公営住宅の住宅政策的意義について大きくみてきたのであるが、このことと共に我々にはその技術的対称としての問題がある。これには最小限住宅のことが先ず私の頭に浮ぶのであるが、大体我々がこれまで庶民住宅の広さの基準として考へたものには次のようなものがあつた。即ち

1. 室内空気中に含まれる炭酸ガスの容限量より算出した、1人当り、3.4帖
2. 1941年、建築学会の庶民住宅委員会が結論した、1人当り4.3帖
3. 京大西山教授が人間らしい住宅の基準としてあげた、食寝の分離、寝室の性的隔離の原則

等等である。

ところが我々の公営住宅は、驚くことにこれらと比べて1人当り2.8帖という過密居住を余儀なくさせているのである。我々は不良住宅を臆面もなく建設しているのである。勿論ゼイタクは浅薄な虚栄にしかすぎない。したがって我々は我々の公営住宅に決して不当な注文をつけようとするのではないのである。ただせめて生活に人間らしい最低空間をもたせるということは、少くとも公営住宅としての技術的な最低の基盤だといいたいのである。公営住宅は今死に類している。2分の1の建設資金国

庫補助という不合理な枠の中で窒息しているのである。

我々は我々の現行公営住宅の平面計画に於ける粗雑さやデザインの稚拙についていろいろときびしい批判があるのを知らないわけではない。しかし先述のような内容の下ではいかに優秀なデザイナーといへども、現状以上の可能性を発見することはむづかしいのではなからうか。各部屋の広さの釣合の工夫や行動線のチミツな探求というようなものも、ここでは無意味なのである。すべてはそれが生長する限界以下にあるのであるから更に底の長さや手摺の1本1本についてもその外觀に対する美的カンショウの上からや機能的必要性についてその要、不要や、是非が論ぜられるのではなしに、わずかばかりの建設費の上からであるのにそれをもつともらしく削られたり、なくされたりしなければならぬ実情であることを考へると到底そのような造形的見地からも、それを高いものにねりあげてゆく余白というようなものは現在の公営住宅はもちあわせてはいないようである。このような下では公営住宅建設の最先端に働く我々技術者は精々そこに予想される居住様式の中から奇蹟的に恵まれた少数家族をとつてきて、予め定められた2.3の小室を、階段を中心としていろいろと組合せをかねてみて比較的円滑な生活が包擁される平面計画というものを、極く初歩の常識的な原則の上に並べ合せてみるという位のことで満足しなければならないのである。

しかしこれもその本来の公営住宅としての一般的な平面計画としてみるとこのようなささやかな努力は、何の意味もなくなくなつてしまうのであつて、その無意味さはそれはむしろいいかげんな広さの小室を、素人的フンベツや又はんの思ひつきで並べたものと少しも異なることはないのである。そこでは初めから無理だとわかつている過密居住が強引におしこまれるのだから。そしてそれは少くとも我々のせいではないのである。このようにして我々の公営住宅はそのあらゆる点に大きな危険性を伏在したまま時代の歯車とかたくからみあいつつ、今後はまたどのように自らの歩みを歩きつづけるのであらうか。

(筆者 大阪府建築部住宅課員)

杭

説明書及び防潮ノ嵩上盛土地帯に於ける実績表進呈

特許
特許

武智式鉄筋混凝土杭基礎工
日信三角型鉄筋混凝土杭基礎工
測量・地質調査・地耐力測定施工

特長 砂利充填による特殊施工法
支持力強大。工事迅速。工費低廉

株式会社 武智工務所

取締役社長 福留並喜

大阪市西区西長堀北通四丁目〇 細野ビル三六号
電話新町〇九九五〜九九八番

会 務 (十二月分)

教育委員会 18日2時建設会館三階鷺尾委員長外委員7名 竜沢真弓氏外学校側7名池上勝郎氏外設計側5名合計25名出席これからの建築技術の学校教育はいかにあるべきかのテーマにつき座談会開催5時閉会

定例午餐会 18日(木)11時半、於住友ビル六階別室東畑副会長外40名出席、食後東畑副会長本年の建築界と明年の一層各位の健在と発展を祈る旨挨拶に代えた後渡部圭吾氏明年は軍需でよくなる見通しと考へる。伊東五郎氏大阪に来て一年半となつた。各位の協力を得て不燃都市実現に邁進したり、浅沼猪之吉氏、建築業界に好況来と聞いた事はないか明春は明るい希望を持つ。横田藤郎氏、タイル界は輸出が不振である。今後内地各位の需用を待望する、3、城口亀吉氏設備面は進駐軍によりかく期的普及上昇したが元来吾々は総合に附随している一層の協力を待つ、栗原信虎氏昔の電気事情と今日の隆盛を比較し益々需用に善処したい。(昔大同電力が十キロ変電した時淀川の水でも沸がすなど云はれたが今日では関西電力丈でも百万キロと聞く之でも不足云々懐旧談面白し)など各氏の意見発表あつて本年掉尾の午餐会を閉じた。

理 事 会 17日正午於朝日、竹腰会長外13名、内海町より委嘱の同町章募集審査の件、道市不燃化連合会申越の講演会の件、1月理事会午餐会開催の件、事務局下期賞与の件、協議入退会詮衡、記念事業外諸報告を了した。

会勢委員見学会 17日(水)2時～4時難波大阪アイス興業KKスケート場大林組現場集合同社七海氏より説明後場内外見学次に府立体育館に至り集會室に集合新工務所幹旋を受け府宮繕課千代忠市氏より説明後見学して4時半終了当日学会支部と共催とし会する者110余名協会岡本弘氏及学会側村田支部長夫々挨拶した大林組並新工務所各位に感謝申上げる。

京都三和銀行新築見学 12月15日2時京都支部並学会支部と共催で三和銀行京都四条烏丸京都支店新築建物見学した、当日会するもの凡100名同行本店技師長白石登貴氏挨拶後屋上迄数班に別れ見学4時解散、学会側及協会側松井京都支部長など挨拶されたが同工事は大林組施工で一両日中完備引渡と云う多忙な時に見学の便を与えられた事を大林組関係各位並銀行側各位に厚く謝意申上げる。

会勢委員会 19日5時於朝日浅沼委員長外5名出席本年度事業経過報告後二十八年一月以降につき協議

建材審査会 19日3時於朝日、置塩委員長外七名ウォルトン分科委員経過報告証明発行決議、新に申越のキ

ルコート殺虫剤及新規受付のマーブリックにつき説明聴取後夫々分科委員に附託

編集委員会 20日3時於朝日、中村委員長外10名1月号以降協議

都市不燃化連合会 19日正午於朝日本会事務局開催渡辺会長外出席耐火建築講演会開催の可否、其他今後事業につき協議

大阪府建築士会 3日3時於朝日本会事務局で定例理事会開催、会報発行其他協議

大阪府立体育会館 竣工式 3日 招待

同上 羽曳野病院 竣工式 12日 同上

朝日アイススケート 開場式 25日 同上

尾崎久助氏 岡橋作太郎氏歸朝 欧米視察中の本会理事尾崎氏、評議員岡橋氏26日5時大阪駅に無事帰着。

日高 胖氏 24日逝去さる。

竹腰会長上京 本会名誉会員日高胖氏葬儀列席のため26日上京

関西建材会(協会建材部門) 8日正午於朝日本会事務局幹事会開催建材保証会の件立案検討、13日正午同所企画委員会、24日5時金泉にて建材保証会案起草委員会、等開催種々協議。

記 会 事 業 京 都 方 面 見 学 会

6日、7日二日間に亘り記念事業最後の見学として京都スタジオと大徳寺の見学を催した。当日晴天に恵まれ集合所嵐山電車停留場に参する者30余名大映にては市川右太衛門佐藤マネジャーの案内松竹スタジオにては清水建設西川氏案内で夫々見学後一同五時半大徳寺に着此処にて先着準備中の京都神野幹事大和理事等と合し懐石料理により(河内松庵師指導)懇親晩餐会開催此間松本部長挨拶後自己紹介一巡後食事を終り大徳寺執事より大徳寺とお茶について一席講話あり明日の行事を打合せ夫々所定の部屋にて就床。

7日、大徳寺勅使の間其他に泊した30余名は六時頃より起る方丈外読経の間に夢を破り起床、中庭の井筒つるべに水汲みて洗面する音賑かになる七時、方丈に入室一同無言着席座禅の型式を教はり静座暫し、二人の僧により指導合掌約30分間にして行事を終り別室に着座、管長より大徳寺についての講話、夫より朝の珍らしい精進料理に舌鼓を打ち小憩、此間会員酒井徹郎氏より記念撮影、庭園及境内建築物特別見学ついで真珠庵、聚光院、孤蓬庵国宝茶席や庭園利休の墓所訪れた後竜光院に入り神野信次郎氏建前で喫茶、モツソ飯の中食弁当を会食同院本堂茶席見学、松本団長挨拶で解

(26頁へ続く)



何と魅力的なFloor!

アスタイルは近代建築に不可欠のあらゆる要素を備へて居ります。

美しい配色と耐久性の良い床を御求めになりませんか。



ASTILE

取扱店 浅野物産株式会社

大阪・名古屋・東京・門司・福岡

K. K 大阪装飾工業所

大阪市東区高麗橋二丁目三四

T.L 北浜 (23) 4336・4831

K. K 東工社

大阪市東区瓦町二丁目 三和ビル六階

T.L 北浜 (23) 378・6254

内外美装工業株式会社

広島市幟町一三七 T.L 広島(中) 5210

製造元 藤森工業株式会社

販売元 藤森建材株式会社

大阪・ 大阪市西区土佐堀通1丁目1

大同生命ビル709号室

電話土佐堀 ④ 225番

東京・ 東京都中央区日本橋通1-2西河岸ビル

電話日本橋 ⑤ 5537・5538・6197

〔24頁より会務続く〕

散時に三時二日間見学の幕を閉じた。本見学に終始幹
旋の労と当日案内其他に多大の御世話になった、阪大
教授奥島正一氏市川右太衛門氏、清水建設西川氏、京

都支部神野氏各位に対し感謝と敬意を表する。

出版部会 17日4時於朝日竹内成夫部長代他出席地質
調査原稿終結今後印刷進行方、資料便覧原稿集り状況
今後進行方協議。

編集後記

吾々が編集を担当してはや1年、来月号からは次期の
方々に交代して頂くことになつて居る。第一回の会合の
席で吾々の間で問題になつたことは、魅力に乏しいと風
評のある此の雑誌を何うしたらもつとアトラクティブな
ものになるかと言ふことで、之に対して種々な案が立てら
れた。

今顧みると、止むを得ぬ事情もあつたが、其半分も満
すことが出来ず真に面目ない次第である。それでも読者
の中で何ものかを感じて頂けたとしたら、それは中村委
員長始め実際に編集の厄介な仕事をして下さつた委員、
協会の沖田さん達の努力の結果である。中でも昨年10月
号の法隆寺特集号、11月号の産経特集号等は多少の反響
は呼んだことと思ふ。

今月号では京大の西山さんから久しぶりで原稿が頂け
た。『工学はどこに問題を求めるか』は構造とは縁の遠
い同氏が構造の研究會に出席されて、氏の立場から之を
批判されたものである。兎角社会的な問題から遊離し勝
な構造専門家には何かと反省になるであろう。教育委員

会で主催された座談会『これからの建築技術の学校教育
はどうあるべきか』の記録は今後の建築教育に就いて多
くの示唆を含んで居ることと思ふ。吾々委員の至らな
かつた所は、虫のよい話で恐縮だが、次期委員の御活躍に
期待して頂いて、吾々は後退します。では次の後記を田
中編集委員にペンリレーします。(小泉編集委員)

建築と社会 第34輯 第2号

売価1部80円(送料共)

昭和28年1月25日印刷・昭和28年2月1日発行

編集発行人 沖 田 誠 一

発行所 社団法人 日本建築協会
大阪市北区中ノ島3ノ3朝日ビル
電話 北 浜 ㊤ 1334~9 番
振替口座 大阪 39975 番

大阪市北区堂山町66
印刷者 綱 野 栄
大阪市北区堂山町66
印刷所 株式会社研文社 電話 壱 〇 二 〇 〇 六

広告前号記事訂正

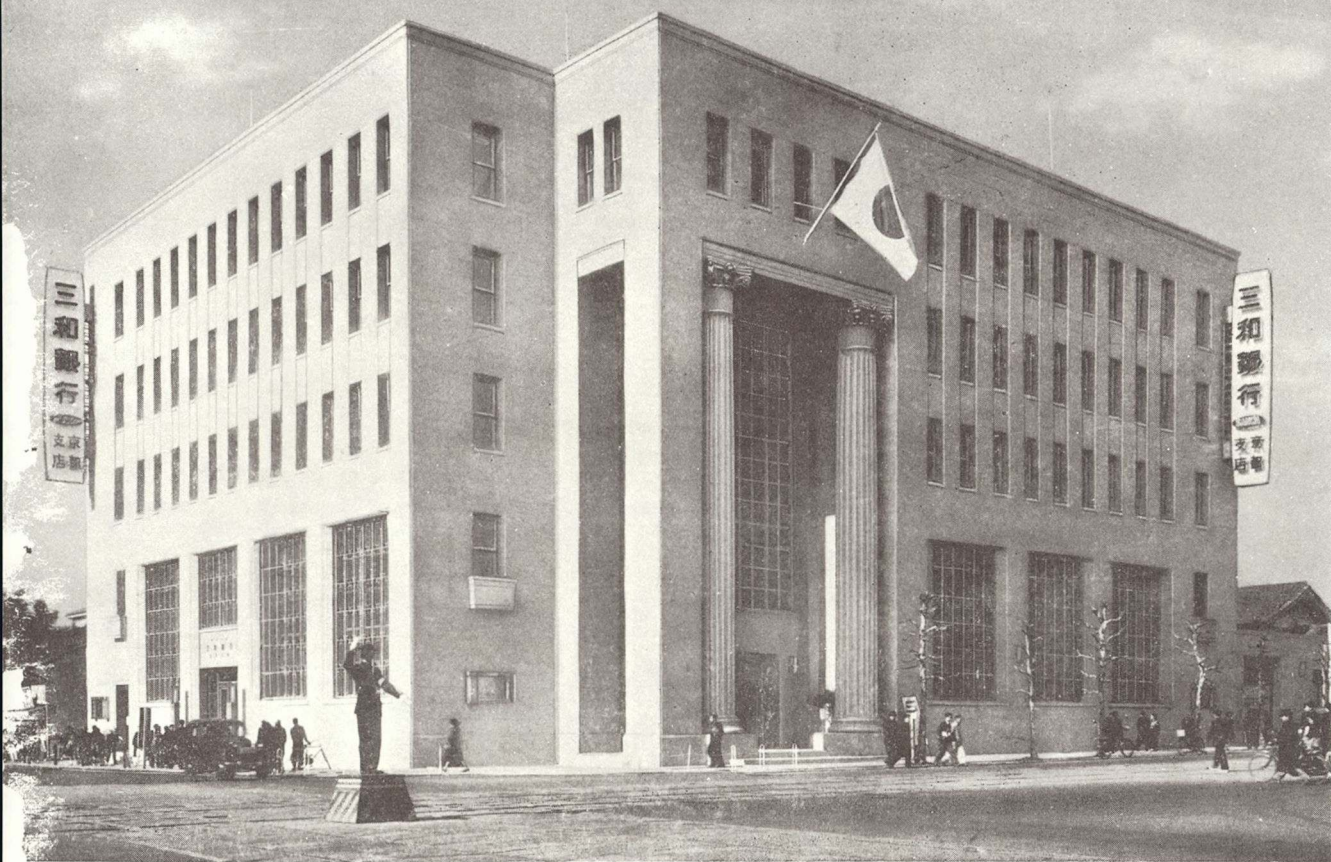
サンエス石膏KK

TEL 南 ㊤ 6806



株式会社 不二製作所

大阪営業所	大阪市北区神明町二〇番地 電話 堀川 (35) 1406
大阪支店及 工場	大阪市西淀川区御幣島町三丁目三番地 電話 淀川 (47) 1220・3276・0257
本社工場	東京都大田区新井宿五丁目一四番地 電話大森(06)0376・2128・2129・3466・3469
本社営業部	東京都中央区銀座西六丁目五番地 電話 銀座 (57) 6983・7506
大森分工場	東京都大田区新井宿五丁目一四番地 電話大森(06)1485・1486・1487
川崎工場	川崎市 中丸子一三五番地

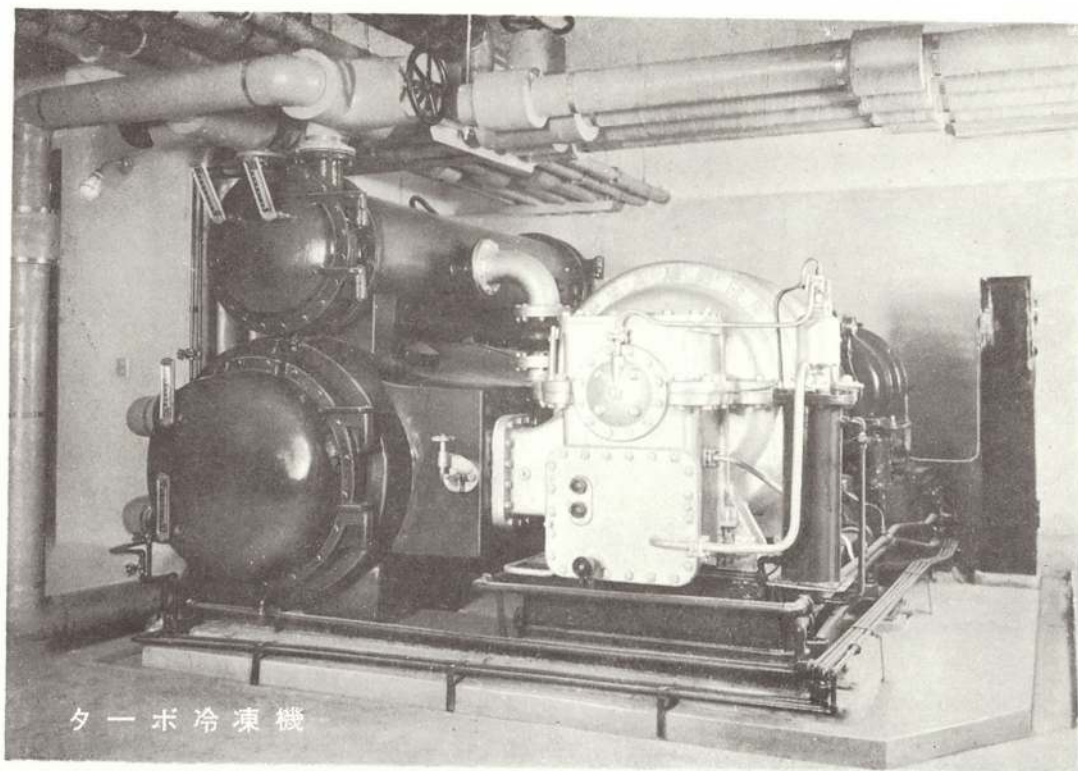


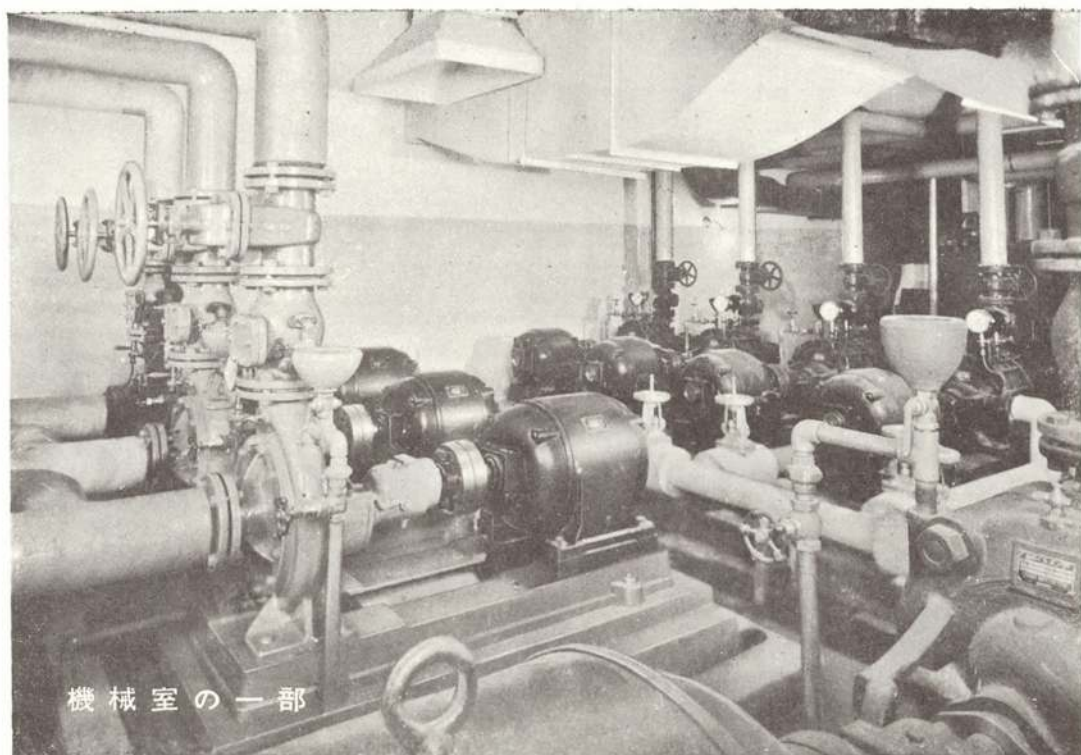
三和銀行京都支店

須賀工業株式会社

新 築 概 要

位 置	京都市下京区四条烏丸通
工 期	起 工 昭和26年5月
	竣 工 昭和27年12月
建 築 面 積	429.0 坪
延 面 積	1901.7 坪
階 数	地下一階 地上五階
主 体 構 造	鉄骨鉄筋 コンクリート
軒 高	23 米
設 計 監 理	三 和 銀 行 建 築 課
主 体 工 事 施 工	株 式 会 社 大 林 組





機械室の一部



洗面器



便所の一部

●第三四集 第二号 掲載広告一覽 (掲載順)

日本耐火建材
安田レール
伊奈製陶
日本ドアーチエック製造
日本金具製作所
協和製作所
田中工業
久保商店
大阪城口研究所
大阪電気商会
桐田商会
齊久工業
三機工業
須賀工業
西原衛生工業所
建材社
栄興商会
三晃商会
マンテン
浅海電気産業
近畿電気工事
中央電気工業

ライト青写真工業
田村商会
室谷商店
大阪コンベス建材社
大島応用化学工業
三舟窯業
大同鑄造
内外土木建材社
永島敬通
大阪建材工業
井上工材
三高製作所
三和アスファルト化工
高野アスファルト
大仏組
田中風呂製作所
シフカー工業所
東京鋼板工業
谷山鉄工所
鈴木シヤタア商会
水島商店
前沢商行

三幸商会
吉田芳雄商店
やよひスレート
田島応用化工
三星スタイル会
和か山スレート
岩元工業
東亜化成
木下謹三商店
杉田組協栄
長岡鉄筋コンクリート
東邦商会
大正鉄筋コンクリート
樫野石灰工業
福屋工業所
川岸窯業
尾北商店
油脂化工社
佐渡島英祿商店
大建工業
日本セメント防水剤製造所
建材信和会事務所
日新工業